

状況不明者の資料届

本籍地

所属部隊 固有名 野砲兵第一四联隊

通称号 基ヲニハロセ部隊

上等兵

昭和十八年九月三日ニエーグリテニ島ーパラオ間の海上に於て
敵飛行機よりの機銃掃射により戦死す
遺骨、遺留品等予（追及者の言）

基ヲニハロセ部隊

伍長

市役所
事務課

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日
地方世話部

所屬部隊 固有姓名 船橋砲兵第二聯隊 通稱 現第 二九五四

年 級等官 前 後 死亡 氏名 生年月日 年 月 日生

死亡年月日時 昭和 年 月 日 午前 午後 時 分 死亡場所 パーシー海峽

死亡區分 戦死 傷病名

發(受)病(傷)年月日 昭和 年 月 日 准士官以上 任官年月日

死亡時 長城丸乗船中、パーシー海峽を航行中、敵潜水艦の攻撃を受け、戦死
遺留品 遺骨 有 無

右證明候也

昭和 年 月 日

所屬部隊 船橋砲兵第二聯隊
現住所 官等職氏名印

地方世話部長

殿

60-10

状況不明者の資料届

本籍地

所属部隊固有名

一〇三师団輜重隊

通稱号

威第一〇六〇七部隊

上等兵

比島転進中昭和十九年四月二十八日マラリ即赤痢及栄養失調のためツケカロウ東方五村の山中にて自決す
遺骨、遺留品あり

威第一〇六〇七部隊

上等兵

死生有命

國有盜賊以責兵部一六卷六

張氏

步兵軍曹

昭和十二年二月一日

43-17

卷之四

卷之四

平
國書
長

伍長

◎本表中央印の欄以外は世帯部にて記入すること
◎肥城上の注意並に履歴欄は裏面にあり（肥城上の注意をよく讀んでから記入の事）

昭和二十二年

死亡者調查表

昭和二十一年

年
月
日
部
製

4-10

死亡現認證明書

元	没	者	注意
所屬部隊	本籍地	死亡前照	現認
壕北隊連襲第九三三部隊	陸軍總行兵上等兵	死亡場所	死亡区分
死亡年月日	死亡場所	死亡区分	死亡区分
昭和十九年五月二十日	戦死	マキ島海に墜入港頭前	死亡区分
證明年月日	事由	證明書	現認者
昭和二十一年	左ノ通り	證明書	現認者
月	日	日	階級氏名
月	日	日	全

34-12

元亡現認證明書

死	元	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
所内部隊 塚北隊連襲第九三三部隊 元亡年月日 昭和十九年五月二十日	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
戦死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死

34-12

11

戰歿者確認(證明)書

一、死政者所屬部隊名（通稱號）第五師團司令部（成才）
（リ之六口）

徵集年所
十
二
投
種

二、官邸（死後前）
（死後後）

二

二氏名

二、死發場所此島ハミナ島エサベツ州ナギリヤ

一、死亡區分之二市面 戰死 軍中死者 頭部貫通 致命

昭和十九年六月七日

死殘者本籍地留守擔當者

右確認(證明)ス

昭和
22
年
6
月
30
日

元所屬部隊名
現住所

元官等級

氏名印

死亡不出、場所ハナルベククソレヲ特ニ終成後ノ死亡ニ明細ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲ
 クソレクオ知ラセ下サイ

苑
先

部

本籍地

部隊名 北島派遣軍威部隊九四二部隊

官等氏名 陸軍軍曹

死亡年月日 昭和十八年七月十五日

死亡場所 バルビセー海

死亡区分 輸送中 負傷 為車轉沈入

死亡理由

右現認入

現認証

本籍地

部隊名 北島派遣軍威部隊九四二部隊

官等氏名 陸軍伍長

本籍地

現認証

部隊名

比島海軍司令部

官卒氏名

陸軍一等兵

死亡年月日

昭和十九年六月五日

死亡場所

太平洋

死亡区分

戦死

死亡理由

船舶遭難

右現認証

本籍地

部隊名

比島海軍司令部

官卒氏名

陸軍一等兵

現認證明書

一 所屬部隊

三三陸軍航空隊(武平一五三二部隊)

一本籍地

一 官等級氏名

陸軍軍曹

一 死七日時

昭和十九年七月十六日

一 死七區分

戦死(腹部砲弾破片創)

一 死七場所

比島ルン島ブランチイ木

一 留守班長者

右現認ス

元三三陸軍航空隊(武平一五三二部隊)

陸軍軍曹

戦死現認書

陸軍上等兵

右者昭和十九年七月二十一日比島中部ルノ島マエヤオ山中ニ於テ頭部負傷銃創ニテ戦死セシコト現認候也
昭和二十年十二月六日

現認者 陸軍八曹

2050

[REDACTED]

固有名字：所國工五隊 通稱名：據力。六三十三

某年能免役種子儒役兵種生五年實

級(昭)和年 月 日 (民名)

年 月

昭和十七年七月二十一日 午後三時

國名 野五胆者囊通飲高

所 $\rightarrow$ 2nd largest $\rightarrow$ 2nd largest $\rightarrow$ 2nd largest

元祐初年十一月十日... 元祐初年十一月十日...

1907-1908

[illegible]

大に死に、死にたは野矢の所、父事としど

状を、度僧の阿良(日蓮)に、^{三十一}「おん」と受けしを、

音類の有無

相違を証明する

四月一日 元所屬部隊(國有) 十〇。 計開五五隊

(通雅)卷六。○文選

现住所

唐職官考卷之七

相違ないことを証明する

月、日

百 萬

部

[REDACTED]

18

現認證明書

比島

赤連茅

部隊

隊

先頭飛行中隊より百二飛行場大隊

陸軍少尉

右者昭和十九年七月三日ハミ一海浜ニ於テ

海没(雷轟)依リ戦死(戦死)ニモルコトヲ現認ス

昭和十九年十二月三日

現認者元

百二十四飛行場大隊

隊陸軍少尉

現住所

氏名



13-12

現認証明書

本籍地

現住所 右二丁目

新隊名

正野初大部隊

役種 現役

階級 陸軍一等兵

一 死亡年月日

昭和九年七月三十一日

二 死亡場所

大太平洋戦争 馬尼ラ海峡

三 死亡原因

輸送中 葛藤 戦死

14-12

一 序 名

戰 死

一 死 亡 狀 況

敵 潛 火 艇 魚 雷 1 發 機 関 部 ヲ 炸 死

右 現 認 入

現 住 市

之 所 屬 部 隊

海 軍 第 三 航 空 隊 目 今 部 隊

階 級

陸 軍 兵 長



9-11

入隊 19.7.10 現役として中隊入八師團 19.6.13 大阪商船乗務員

二等兵 19.7.10 商船乗務員

復 19.3.10 一等兵

19.6.10 町司出港

遺骨 19.7.10 上世 陸軍関係書類へ 市(報告)の有無

現 理 往 所 [Redacted]

認 所 遺 師 隊 ジャワ派遣軍第十六教育飛行隊

着 死者との関係 戦 友 階級 伍 氏名 [Redacted]

見 ※ 所

調 製 上 の 遺 骨

一 ※ 印の箇所は傷部にて記入す
二 復 歴 欄 には 入 隊 後 死 亡 迄 の 詳 細 に 記 入 の 事 と
三 戦 死 時 の 状 況 持 有 物 等 詳 細 に 記 入 の 事 と
四 一 部 調 製 上 の 事 項 銘 筆 等 不 可 欠 之 事 項
五 本 書 送 り 先 には 教 育 部 第 一 世 話 課 認 係 と す

生野島略
直 洋 93700 個 環 行 才 入 解 面
司 全 部 神 光 電 受

上陸後状況

00三五一威(画)

軍空航四第(画)

31 7 19 日

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

海一シバ

所部属所

時日月年

所 場

分 區

事

由

亡

留(通)骨通

種 兵 種 役

前 亡 死

后 亡 死

名

本

籍

留 守 担 當 者

現 住

所 地

名

(籍 柄)

代

名

所 地

名

所 地

名

所 地

名

所 地

名

所 地

名

所 地

戦時死亡者現認證明書

石 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

所 現 認 ス

調製上ノ注意

一 所屬部隊・病名・病状・名・姓・明記を記入ス

二 死亡原因・経過・詳細・病状・由・病名・月・上陸地・等・於・之・建・格・清・テ・否・ヤ・其・他・考・考・料・并・記・入・シ・テ・記・事・多・シ・場・合・ハ・同・様・

三 遺骨・遺品・一欄・ハ・有・無・有・ル・場・合・ハ・何・処・ニ・アリ・ヤ・現・地・上・陸・地・支・荷・留・分・宅・并・記・入・シ・テ・

四 認印ヲ忘レヌコト

五 同一人ニ對シニ二部調製ノコト

官等初代名陸軍主計軍醫

上陸月日

上陸月日

上陸月日

上陸月日

上陸月日

上陸月日

22-11

死亡現認證明書

本籍地

所屬部隊(固有省)

徵集年 十七年

現役 役種 飛行

(通稱號)

兵種

官等級 死亡前 一等兵

氏名

生年月日

留守擔當者

本籍地 二同

親柄 父 氏名

死

年月日時及區分 昭和十九年七月三十一日午前四時五十分戰死

亡

場所 巴里 海

傷(病)名

受

年月日時 昭和十九年七月三十一日

4-12

右の通り現認したことを證明す

昭和 年 月 日

本籍地

所屬部隊

官等級

職名

勤務の概要	内地港灣出發年月日 戦地に到着年月日	受傷(罹病)の状況	戦死(病死)の状況	傷(病)名
	昭和一九年七月十三日 門司港		昭和十九年七月十三日 前線に於て敵機に射撃を受け 足部を骨折し、一審下で 傷を癒すに居る中、 肺に病を患ひ、 七月三十日午後 七時、 現病室にて 戦死した。	

4-13

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日

地方世話部

所屬部隊 固有名 第三航空教育隊 通稱 西部第九十九部隊

集 現役 兵 飛信実 官 前 死亡 後 死亡 氏 生年月日 年 月 日生

死亡年月日時 昭和 年 月 日 午前 午後 時 分 死亡場所

死亡區分 傷病名

發(受)病(傷)年月日 昭和 年 月 日 准士官以上 任官年月日

死亡時 昭和十九年七月三十一日早朝、大坂商船所屬半客船、扶桑丸三輪送送途中、午前四時五十分頃、潜水艦ヨリ遺留品、の状況 奥雷攻撃を受け、同船ハ約一分後沈没、於此ヨリ遺留品の有無、不明

右證明候也

昭和 年 月 日

所屬部隊 第一五三五八部隊

現任 官 陸軍伍長

殿

10-12

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日

地方世話部

所屬部隊 第三航空教育隊

通稱

西部第九十九部隊

現役 兵 飛行兵 前死亡 陸軍 一等兵 後死亡

氏名 生年月日 昭和 年 月 日生

死亡年月日時 昭和 年 月 日 午前 午後 時 分

死亡場所

死亡區分

傷病名

發(受)病(傷)年月日 昭和 年 月 日

准士官以上 任官年月日

者

死亡時

状況

昭和十七年七月三日ハシー海峽ニ於テ六段商船所屬扶桑丸
ニテ輸送途上先南四時五分頃潜水艦ヨリ突雷攻撃ヲ受テ
同船ハ約一分後沈没セリ
右者ハ沈没時甲板上ニ在リ三等ハ確實ニ其爾後沈没ハ
全ク不明ナリ

遺留品 遺骨 有無

右證明候也

昭和 年 月 日

所屬部隊 第一五三八部隊
現任所 官等職氏名印

陸軍部長

殿

11-12

戰時死亡現認證明書

區

分

記

事

本籍地

所屬部隊(固有名)

第一五三飛行場大隊

役種徴集年

補充

昭和九年徴集

官等級氏名

死亡前ノ官等級
死亡後ノ官等級

陸軍上等兵

留守擔當者住所氏名

妻

死

年月日及區分

昭和十九年七月三十一日

三時四十二分(傷病)死、全焼死、死海没

場所

バシー海峡

亡

傷(病)名

内地港灣出發年月日
戰地到着年月日

昭和十九年七月十三日門司出港

勤務ノ概要

輸送中

受傷年月日時

場所

(病難)

傷(病)名

現認者所屬

昭和二十一年十二月三十一日 名古屋 上陸復員者

官氏名印

威九九二六

陸軍伍長

部隊

嚴

22.2.14
印付

遠方世詩

集結致し翌日後用ひ
若し雨會致しマシタ
海路無事ナレト

新し甲斐毛ナク昭和十九年七月三十一日午前三時四十分集雪二本

ラ、又々我手ノ乗取レタル吉野丸ハ瞬時ノ間ニ沈没致シマシタナ生ニ
約十時同余、海上ヲ漂ヒシモ海防艦ニ号ニ救助サレ幾多ノ経路

経テマニラ兵站部ニ集結致シマシキ其ノ際一五三飛大ヲ訪シ
 陸軍省ニテ皮シ安否ヲ問ハレタルニ其ノ次子無ク殆ク戦死ヲ忍ナルモ其ノ
 母ハ其ノ子ノ別後団長ニシテ其ノ親ヲ思フ心ヲ表シテ其ノ
 母ハ其ノ子ノ別後団長ニシテ其ノ親ヲ思フ心ヲ表シテ其ノ

後状況急グマニ任地ニ向ヒ音信不通トナリマシタ此度カ生帰還致シ
家族ヲ訪シ彼ノ安否ヲ聞キタルニ米カ生死不明ニテ家庭ノ運行上大ニ
支障ヲ来シ居ル事ヲ知リマシタ生モ恐懼ニ堪ハズ前記ノマヽヲ詔シマシ
ル屬家族モスベテラマキタメテカノ如ク英霊五ノ帰ヲ待テテ家庭ノ
整理ヲ致シタハトノ事ナシタカラ出来得レハ一日モ早クハム報ヲ出シテ
載タリ次第デス家族ニ於テモ右ノ報ヲ待テ居ル狀歎デシタ
右ハ書面ニテ御函ケ致シマス

昭和二十二年二月十五日

元陸軍伍長

現認證明書

本籍地

現住所

所屬部隊

官氏名 陸軍

死亡場所

死亡區分

死亡日時

死亡傷(病)名

留守擔當者住所

續柄氏名

右證明する

昭和二十二年

〃月〃日

現認者住

元所屬官氏名比島源成九七部隊一五三飛行大隊教導中隊

陸軍上等兵

(死亡前)陸軍上等兵

比島バシー海峡

分隊一政變中ニテ歸難シテ本隊ハマラ市ニ特ニ事シテ月

昭和十九年七月三十一日午前二時

昭和十九年七月三十一日午前二時

妻

俘獲

本日お便りに接し申し、君の事、御尋ね下され、松ころ無事復員し、何は置ても、君の戦死の模様、早速御報らせ、愛さるるはと、氣にはかけをせり、すまひ、内地を去る際、戦友名簿まで作成し、持て、たが、輸送難、沈没し、共に海軍に紛失しました、たが、君の留守住所、不明の為、心にも、然く、失礼致し、居りました、誠に申し、訳も、御座居ません、右の模、次、おす、か、と、い、から、御許に、下、さ、り、承、り、ま、す、小、は、君の御母上様、お過日、御他界、逝されし、由、親、一、人、子、一、人、と、は、君より、兼、ね、て、伺、う、居、り、ま、し、た、か、ます、ね、て、御尋ね、り、君の状況、既、御の、様、口、次、お、か、御報、せ、の、遅、延、致、し、て、居、り、ま、し、た、る、と、い、う、君や、君の御尋ねに、接し、内、君、に、は、一、通、り、お、報、ら、せ、ま、す、と、い、う、御慰め、し、て、下、さ、る、御、申、し、上、げ、ま、し、た、が、尚、私、の、記憶、を、想、惑、し、て、御報、ら、せ、致、し、ま、す、君は、同、一、部隊、へ、転、属、する、事、に、成、り、ま、し、た、内、地、を、出、発、し、た、が、昭和十九年、六月、十三、日、に、した、船、は、九州、の、若、津、岸、に、沈、み、鹿、兒、島、灣、に、停、泊、し、た、翌、朝、出、発、し、た、此、が、薩、摩、高、士、大、尉、の、之、以、て、内、地、も、見、終、り、た、と、い、う、共、に、南、門、岳、が、見、え、る、る、近、甲、板、に、立、つ、眺、め、ま、し、た、本、島、に、お、れ、が、見、終、り、た、に、似、つ、た、り、と、い、う、君は、それ、から、台灣、に、寄、港、し、て、昭和十九年、二月、三十、日、に、南、三、峙、に、四、時、頃、に、す、丁、度、バ、ン、ー、海、峽、を、通、過、の、際、潛、水、艦、に、襲、撃、さ、れ、私、達、の、乗、つ、た、聯、運、船、は、ボ、イ、ラー、室、に、負、傷、を、も、ら、う、て、約、五、分、同、位、の、後、沈、没、し、ま、し、た、

迎、り、は、眞、摺、り、す、丁、度、眠、り、盡、り、を、や、ら、れ、た、か、と、い、う、私、は、午、さ、ぐ、り、で、や、う、や、く、安全な、位置、を、求、め、て、命令、を、待、機、し、退、船、命、令、を、耳、に、こ、し、海、軍、に、飛、込、み、約、十、時、同、海、中、を、さ、ま、よ、う、居、り、ま、し、た、運、良、く、味、方、の、求、助、船、に、拾、は、れ、マ、ニ、ラ、ウ、兵、站、に、遭、難、者、は、落、ち、合、ひ、生、存、者、死、亡、者、を、調、査、し、ま、し、た、が、其、の、時、に、君は、居、ま、せ、ん、と、い、う、

19-12

私の想ひまするに 君は退船出来得ず船と共に巻込まれたのではなかつた
思はれます。退船した者は殆んど助つて居ります。其の時生存者は約九名
の中三分の一位だった。陸上は水に溺れしに溺る事し出来ずが何と申しまう
も海をすから船と共に沈没してしまふ死体一つもありません。
君はそれ迄は非常な元氣でした。私の方へは残つて居ります。その時
は内地部隊の一人として沈没した。君は貴族様と同行内 君が始めから同班でしたから両
君に御伺ひ下さい。 既に御承知とは存じますが右の方から何時にも御面会出来得ると思ひます
君にもくわしい様様御教へせしめ置きましたから同君とも御面会の上御話し
下さい。

八時半ごろ

様

敬具

拝

本籍地

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

昭和九年七月三日

事實
死亡證明書

本籍地

所屬部隊
(通稱號)

飛行第四五戰隊
(通稱號) 飛第百六十四戰隊

昭和

年徵集陸軍上等兵

右之者昭和十九年八月廿一日在島呂宋附近

ノ戦闘ニ於テ戦死シタルコトヲ證明ス

昭和 年 月 日

調製官

飛行第四十五戰隊長

陸軍少佐

3-12

現認證明書

以島派遣曉第六四部隊 隊

陸軍上等兵

右者昭和十九年八月十四日利木山島ニ於テ

以島派遣曉第六四部隊ニ依リ戰死(戰精葬)セルコトヲ現

認メ

昭和十九年二月二十五日

現認證明書 元曉第六四部隊幹候隊

實業部長

陸軍省

印

QJ-10

—五—

氏 姓

第三師團步兵第三旅第一營 年 月 日生

比島派遣船 第二三四部隊

三、戰死者徵集年昭和十一年 役種歩兵 兵種步兵 死亡前官等級陸軍一等軍醫 年昭和 月 日

四、戰死年月日時刻及場所 昭和十九年八月十九日 野戰 敵機襲撃時

五、我五兄

王、車、馬、炮、士、象、帥、他官(將、士、卒)

三十七、還歸骨、有無

七、戰死當時，狀況，概要

昭和十九年八月始め、タメセテ野戦病院入院中セテ島嶼戦、タメセテ戦死ス

八、死亡區分戰死事由
 發病年月日 昭和 年 月 日

其 他 (上陸船 於死亡者 醫者 依 7 年 立カ、 部隊 運送 整理 班、 申立 新ナレバ 上陸 年月 日 及 上陸 地

0. 遺族ノ現住所

戦死者ノ遺孀

氏名

右ノ通り戰死セラルタルコトヲ證明候也

昭和十二年二月二日

證明者住所

戰死者卜、關係戰友

所屬部隊名 比島派遣隊 第三師團

兵種 步兵 官等級 望重 壯年兵

氏 名

市町村長證明箇所

右記載事以備查核

三十三

現認證明書

被認定者本籍

會社所在地

役名

陸軍航空本部臨時無給補託
判任級 被認定者氏名

年月日

右者昭南市第三航空軍要員ト幸赴任ス爲メ陸軍輸送船帝亞
九ニ便乗航行中昭和十九年八月十八日午後十時頃バーレーン海峡附
近ニ於テ敵潜水艦ノ雷撃ヲ受ケ遭難シ其後行衛不明
トナリシモノニテ當時ノ状況ヨリシテ其降死セラルト判断ス

右現認人ハ終始本人ト行動ヲ共ニス
尚現認證明人トシテ
昭和二十一年月日

證明人

會社名

陸軍航空本部臨時無給補託

被認定者本籍

會社所在地

會社名

役名

現認證明書

陸軍航空本部臨時無給嘱託
判任役 被認定者氏名

年月日

右者昭南第三航空軍要員トシテ赴任、為メ陸軍輸送船中
亞光ニ便乗航行中昭和十九年八月廿八日午後十時頃バ
峽附近ニ於テ敵潜水艦ノ雷撃ヲ受ケ遭難漂流シ其後
行衛不明トナリシモノニテ當時ノ状況ヨリシテ其際北七
ト判断ス

右現認人ハ終始本人ト行動ヲ共ニス
尚現認證明人ハ終始本人ト行動ヲ共ニス

昭和二十年四月

證明人 本籍

陸軍航空本部臨時無給嘱託
奉任役(重備役陸軍少尉)

3-12

被認定者不籍
會社所在地
役名

現認證明書

陸軍航空本部臨時無終斷託
判任役 彼認定者

412

右者昭和第三航空軍要員トシテ赴任海陸軍輸送船中重
便東航行中昭和十九年八月廿七時頃バリエイ海峽附近
在在敵潜水艦ト衝突シ雷撃ヲ受ケ遭難沈没シ其後行衛不明
ナリトモニシテ當時状況ヨリシテ其存亡セムト判斷ス
右現認證明人終始本人ト行動ヲ共ニス
昭和二十二年四月 日

證明人本籍

現任

陸軍航空本部臨時無終斷託
判任役 彼認定者

現認證明書

被認定者本籍

會社所在地

役名

港軍航空本部臨時無給聘託
判任被認定者有之

年月日

右者昭和第三航空軍要員トシテ赴任、為ノ陸軍輸送船中
重見、便東航行中昭和十九年八月十日午後十時頃、海
面附近ニ於テ敵潜水艦ト遭遇シ、被テ遭難状況、其後行
衛不明トナリシモ、ニシテ當時ノ状況ヨリシテ其存否ハ
判然トス

右現認證明人ハ終始本人ト行動ヲ共ス
昭和二十一年四月

證明人

現任所

陸軍航空本部臨時無給聘託
奉任者ハ前記陸軍航空本部臨時無給聘託

5/12

城島證明書

被認定者本籍
曾江所住地
曾江名
役名

陸軍航空本部臨時無給職務
判任役被認定者氏名

年月日生

市着昭南第三航空軍要員トシテ赴任為陸軍輸送船浦重九三便
東航行中昭和十九年八月十八日午後十時頃シイ海峡附近に於テ
敵潜水艦ト遭遇シテ其機銃射撃ヲ受ケ遭難沈没シ其機銃射撃ヲ受ケ
當時状況ヨリシテ其際死セラルト判断ス
右現認ス
尚現認證明人ハ終始本人ト行動ヲ共ニス

證明人本籍

現住所

陸軍航空本部臨時無給職務
判任役ハ外南支隊第一

6-12

現 認 證

死 亡 場 所 バヤノ海峽	死 亡 年 月 日 時 昭和九年八月一日	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職
死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職	死 亡 時 職 死 亡 時 職

三世
21.24
付

43-12

遺骨遺留	品：有無
功績含其要否	否

43-13

死亡前後狀況(本人或其所屬部隊)

我々輸送船国多不獲は五半八月十日午後一時五分
バグ海峽を臨む島なる間、重砲改裝の爲め殆ど米米流
我々（當日神）の敵艦も瞬時に海中に沈み、翌朝敵艦は
に落ちた。サウスランドに金銀收奪するものや、夜のせいで見えたが、
又、島の南側に生じたものなり。政士、日誌、夜泊し、十九日早朝まで
死んだ。荒定、理恵に死せるものと認む。
ミズキ、津森、子、其ノ他（推認）

右の通り認定ス

所屬部隊
現任所
官等氏名印

判明セル所ハ成ルベク詳シク記載セラル度ヲ
 以テ死ニ認定ノ理由ニハ其確度(例ヘバ昭和九年十月二日甲)ヲ示サレ度
 乙 甲 確實ナルモノノ記憶ウ人キモノ 丙 他人ヨリキモノ

現認證明書

被認定者本籍

會社所在地

會社名

役名

陸軍航空本部臨時無給屬託
委任役(豫備役陸軍少佐)

年 月 日生

市春昭南市第三航空軍要員トシテ赴任ノ為ノ陸軍輸送船帝重丸ニ便乗
飛行中昭和十九年八月十日午後十時頃バーシー海峡附近ニ於テ敵潜水艦
ノ雷撃ヲ受ケ遭難沈没シ其後行衛不明トナリ今日ニ至ルモノニシテ當時
状況ヨリシテ其際死セラルト判断ス

右現認ス

尚現認證明人ハ終始本人ト行動ヲ共ニス

證明人 本籍

現住所

會社名

陸軍航空本部臨時無給屬託
委任役(豫備役陸軍少佐)

現認證明書

被認定者 本籍
會社所在地
會社名

役名

陸軍航空本部臨時無給嘱託

被認定者氏名

年 月 日生

右ノ者昭南市第三航空軍要員トシテ赴任ノ爲陸軍輸送船
帝座丸ニ便乗航行中昭和十九年一月十八日午後十時頃ハレシ海峡
附近ニ於テ米機米艦ノ雷撃ヲ受ケ沈没遭難シ其ノ後行方不明
トナリシモノニシテ當時ノ状況ヨリシテ其ノ際死セラルト判斷ス
右現認ス
右現認證明人ハ終始本人ノ行動ヲ共ニス

昭和二十一年七月 日

證明人 本籍

現住所

會社名

陸軍航空本部臨時無給嘱託
姜任坂豫備陸軍少尉

死亡事實證明書

公稱期

任所

所屬部

死亡前階級

名

右

石

現任所

部隊名

職氏名

右二回

南武

時

一

死

一

一

一

一

二

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

昭

59-11

現認(事實)證明書

本籍

所屬部隊名 東部第九部隊 戦軍隊之隊

(官等級)

陸軍二等兵

(氏名)

第11

一 死亡年月日時

昭和十九年八月十九日午後一時三十分

一 死亡場所

大島ルンバーニリ海狭

一 死亡區分

戦死

一 當時の状況

佛印方面ニ増加敵艦部隊トシテア九ニ乗艦前部海峡航行中敵潜水艦ニ追いつかれ襲撃ニ依リ沈没此際海没戦死

右の通證明す

昭和十九年

八月十九日

現住所

前属部隊名 東部第九部隊 戦軍隊之隊

野戦貨物

陸軍二等兵

32-11

死 亡 明 認 證 明 書

死	亡	者	現 認	記 載
所屬部隊名	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意
官第級氏名	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意
本籍地	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意
所屬部隊名	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意
官第級氏名	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意
本籍地	死亡年月日	死亡場所	現認事由	記載上の注意

本證明書は三師團野戦病院に於て昭和十九年七月八日輸送船五津丸に乗船して
 公海に於て戦死したる者及び戦死したる者の遺骸を収容し現認すること
 公海に於て戦死したる者の遺骸を収容し現認すること

第三十六師團野戦病院
 陸軍伍長

昭和十九年七月八日輸送船五津丸に乗船して
 公海に於て戦死したる者及び戦死したる者の遺骸を収容し現認すること
 公海に於て戦死したる者の遺骸を収容し現認すること

戦死
 公海に於て戦死したる者及び戦死したる者の遺骸を収容し現認すること
 公海に於て戦死したる者の遺骸を収容し現認すること

昭和十九年七月十九日
 戦死
 公海に於て戦死したる者及び戦死したる者の遺骸を収容し現認すること
 公海に於て戦死したる者の遺骸を収容し現認すること

陸軍伍長衛生伍長
 戦死
 公海に於て戦死したる者及び戦死したる者の遺骸を収容し現認すること
 公海に於て戦死したる者の遺骸を収容し現認すること

寫

死亡現認證明書

昭和十九年八月廿日調製

所屬部隊	固有姓名ニテ示す部隊	死亡場所	ハシ海峽
本籍地	通稱號 泉五三三	死亡年月日	昭和十九年八月十九日
死前階級	兵長	死亡区分	戦死
氏名	[Redacted]	受傷箇所	海没
遺体遺品	なし	疾病年月日	なし

昭和十九年八月十九日ハシ海峽に於て敵潜水艦より魚雷攻撃を受け乗船沈没時海没死とす

記載の上の注意

一 現認事由は當時の状況詳細に記す
 一 本證明書は三部作製する
 一 階級は必ず死前を記入する
 一 死亡区分戦死の場合は受傷箇所と戦病死の時とは病名を病年月日を記入する
 一 死亡場所死亡年月日死亡区分の確定正確なる時は甲欄に確實な時は乙欄に記入し、その下に記入する

證明者

元所屬部隊	泉五三三
本籍地	[Redacted]
現住所	[Redacted]
階級氏名	兵長 [Redacted]
氏名の下に必ず印を押すこと	印

145

1997

○本表中等の外の第一世階級にて記入すること
○記上の自衛洋船機は水面にあり、在海上の注意を以て覆たまから記入の事
○不備事項を註明しあるものは各社にて修正すること

一、死者所属郡縣名（通稱）**盟** **第一七六** **年五** **郡** **隊**
 二、戰年 **昭和十三年** **役** **組** **押元** **兵** **兵** **和** **山** **成** **兵**
 三、官階（死後） **一等** **等** **兵** **（死後）**

月

日
生

一、死政場所 呂宋島マニラ市郊外ケル、府内

二、死亡區分蚊一事由

此年日本天皇八月之同時崩逝云云。月表。秋即心首。

一、死歿年月日時

昭和十一年九月
 星加坡大坡
 十三號
 起等
 小三
 西七

一、死後將不能地留守墳墓者

美

昭和 22 年 7 月 2 日

元所屬部隊名 盟第一七六五五部隊

現
住
所

[REDACTED]

元官等級陸軍少將

氏名印

[REDACTED]

駐、死亡事山、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニカフタ者ハツノ前後ヲ

クシノオ知ラセホサイ

宛
坑

世話部戲曲類

22.5%

此景洲遠
據第一〇四九部隊
水隙

陸子書長

1990

昭和拾九年九月七日

戰死

比島ミナゾカ島ザボ洲ザボサ港嘉摩地

[illegible]

感靈筆後 疏茅。三元部隊不部。う送リト鬼ッ

其西遺漢名曰新陳。一云三都郡。一云二都郡。
又云：瑤左千七。瑶第一。二云五都郡。一云六都郡。

下三つ位、助三郎、市三、夜半、

島河墨 抄本 第一ノ五九 書家

陸軍少佐野地共

100

我
上
的
心

[illegible]

死亡現認書				昭和	年	月	日
死者	本籍地	[REDACTED]					
	現住所	石河					
	所属部隊名	第三師団第四一聯隊第三中隊					
	官職氏名	陸軍軍属 (別任) [REDACTED]					
	死亡年月日	昭和十九年九月八日 (推定)					
	死亡場所	シンガポール島スリガブ (推定)					
死亡区分	戦死	死亡事由	頭部貫通銃創				
遺骨・遺品の状況	遺骨あり、友方より発見され、[REDACTED] 所持、本人行方不明と推定						

右現認す

現認者

本籍地

現住所

石河

死没者との関係

親友

所属部隊

第三師団第六八部隊勤務中隊

元職官氏名印

人等、功績係准尉

記載上の注意

1. 推定は甲(推定)、乙(概ね推定)、丙(疑はしきもの)の区分で記入する
2. 死に原因欄には傷、貫通銃創、或はマラリア、コレラ等の病名を記入する
3. 死没者との関係は中、小隊長、分隊長、戦友等記入する

07-157-20

氏名

年 月 日生

備役兵種步兵死亡前官等級陸軍

昭和十九年九月九日 七ノ島十三ノ島十四ノ島中間洋上

現認ぜしを確實にせしむと恩を蒙る

道骨正心

9

西郷三郎、道に探業々々、不才州バスヨリ
山生、追例、新之宋、監禁ニ至ルモ未ダカキ
皇親院ニ復送ク、不才ノ荒ヲ出帆セシ角ニ才高中隔
水ノ聲、支ト生存者皆無、在鬼ノ由後聞入

事由 廊空爆 發病年月日 昭和 年 月 日

（申立新ナレバ上陸年月日及上陸地
於テ生テ元不明（申立済）

氏名

證明候也

月二十日

4011 胡

氏 名

[illegible]

印

寫

現認證明書

地方世系

死者	亡	者	死		死亡年月日時	死亡區分	留守宅住所氏名
			集	徵			
			昭	5			
			補	兵			
			歩兵	前死			
			三等兵	後死			
			名	氏			
			比島	多島			
			爆死				

セツ島セツ島市役所（市役所を假二無知ニテ所）ニ於てセツ島
最初ノ爆撃ニテ爆死ス。其ノ時、死者約四百名

戦友

右現認證明致します

昭和三十一年 四月 五日

官等氏名	所屬部隊	現住所	本籍
陸軍上等兵	独立混成五師團三六二大隊	左	

死
亡
界
認
證
明
書

死	亡	者	現	認	者
所屬部隊名	官等級氏名	本籍地	死亡年月日	死亡区分	死亡場所
比島連軍威六二六部隊	陸軍歩兵上草兵		昭和十九年九月十二日	戦死	比島グアム島セバニ
傷病名	遺骨遺用品の状況	現認事由	選別年月日	所屬部隊名	官等級氏名
グラマニの空襲	昭和十九年九月中原地に對し連軍威六二六部隊に對し、及不 昭和十九年九月の敵グラマニは、有千機、空襲、有り當日早朝、 空襲、敵機、八時頃、不規則に突入、大空を占める者、 あるベ、大時、突入、午後、夜に對死す。			比島連軍威六二六部隊	陸軍歩兵上草兵
現住所					

昭和二十三年六月二日

死亡事實證明書		地方世話部	
本籍地		[Redacted]	
所屬部隊固有名		地方自衛隊司令部 隊十一六三六部隊	
徵集年 (任官年)	役種	兵種	死亡前官等級 同族令年月日
	少	一	兵 陸軍一等兵
出生		[Redacted]	
現住		[Redacted]	
婚否		[Redacted]	
親稱氏名		父 [Redacted]	
死亡年	昭和十九年	死亡區分	戦傷死
月日時	九月十四日	死亡場所	ソコラ
死亡事由	作戦中自衛隊事故		昭和
傷死	[Redacted]		昭和
死後略	陸軍一等兵		昭和
要否	[Redacted]		昭和
死	昭和十九年九月十四日中食夜アコラ地区に於て 作戦中自衛隊事故、父一軍ニ五名ヲ行ク途中 車上ニ居リ、父一軍ニ五名ヲ行ク途中 死セリ		

1-10

右の通り相違なきことを証明する

昭和二十三年六月二日

本籍地 [Redacted]
 (現在所) 父 同
 所屬部隊 隊十一六三六部隊
 親氏名 陸軍一等兵 [Redacted]

未獲

10-11

日は午ばりありす。一泊後三浦に向て出帆。船内は八隻。我々の船
 が一番船。護衛艦は駆逐艦三隻と云ふ。細てそれらも航海は重
 向うみと夜間は島と島とを向う。假泊する。スッカリ船が安全
 なり。自信と得高研を以て四日目の朝愈々ルン島が見入るとあ
 日より浪高く雨り。九月三日午前七時頃。一たび我々の船が
 凄々音と共に水煙を包み。トッパシク。と云ふが早に水煙が消へると
 まに船が沈むはちりす。せん相惜。噴火。飛行機は来す。駆逐艦が
 投下する爆雷。音々。船より。掃砲。青射撃。物語。中と船田
 はバウに。進み。ヤ。其。向。我。船。も。二。突。急。常。と。わ。け。一。金。く
 顔色な。約。一。時。向。後。ゆう。大。大。夫。た。う。と。朝。愈。と。取。り。に。行。つ。た。り
 船室に。這。入。つ。ち。一。始。め。噴。火。潜。望。鏡。の。雷。跡。々。々。う。け。た。ま。い。り
 声と云ふ。(おまは甲板船首。居。ま。い。ま。い。ツ。ン。ト。ン。と。お。濃。く。シ。ミ。ツ。ク
 と。よ。け。船。橋。は。吹。飛。び。木。片。な。い。バ。ラ。ン。と。飛。散。つ。て。何。と。も。云。ふ。ぬ
 夫。景。より。ゴ。ウ。ー。と。云。ふ。音。と。ま。に。船。は。沈。み。始。め。ます。船。首。の。一。番

高田新とのけけり
戦名
と一諸に駄目ぢや昭々

と一種悲壮な持ッ
トブンハ必ズハ泳ぎマシタ後と見え
中船は煙突と一す見せて沈ん
マシマシキ
高浪と聞て軍歌と唄ひ
主時内後と
と云々
駄潜艇に救助

と云々
溺死人は流れる
一船と一寒くは
一氣絶持
と云々
りまんと食う
樹な
ぬい
北ル
ソンの
サロ
マ
干と云
小集村
上陸
(中略)

第一回の高田と戦なり
約四合と云々
其の中
入つて
た事
は
実
に
残
念
で
一
た
基
隆
と
向
碇
の
場
一
相
互
彼
や

ア
兩
親
の
事
と
思
ふ
と
云
々
毒
び
な
り
ま
ん
後
略

復員ヤ
戦なり
誤

住所氏名

昭和十九年九月三十日
朝方
一
其
の
日
は
比
島
の
ル
ソ
ン
島
を
見
ノ
島

び余終ルソノ島と止づいた海上でと思ます朝々時頃船田、他の輸送
 船が雷撃を受け、我々も緊張してあり、一、二時過ぎ、大衝動と
 共にアフト云小岡の船は傾斜、沈み始め、水を濡れ、艦の魚雷と
 受けたウツ、を私は直ちに戦え、と、と、ゆ、て、た、が
 是其の時甲一板に居るす、おも随分探さる、が、見當らず、
 と、夫に海中に飛び込み、数時間後救助せぬ、と、ふ、と、
 救助せぬ、と、せん、と、は、あうとき、般船内と居る、と、

10-14

現認(死亡)證明書

検印

課長

死本籍地

現住所

氏名

係長

亡

死亡年月日

主任

者

死亡時の状況

認定

右現認す

昭和三年一月

者

者

氏名

印

新島新隊固有名第三隊軍(将)通稱號

現役兵 船行兵 兵士長 定後 任長

最後の通 級年月日

留中 留南 留北 留東 留西

姓

死亡年月日 昭和九年九月五日 午前八時 死亡場所

傷病名 戦死

年月日

遺品の有無

無

未歸還品の有無

昭和十九年九月一日 バニール海峡に於て遭難 (船名)

バニール海峡 行方不明となり 其後の状況不明として 戦死と見做す

日

元新島新隊軍第三隊軍(将)通稱號 定後 任長

氏名

印

現認證明書

一 籍地 [redacted] 住所 [redacted]

一 氏名 [redacted] 官等 [redacted] 陸軍歩兵 [redacted]

一 役職 [redacted] 大正十四年 [redacted] 推定

一 死因 [redacted] 昭和九年九月二十日 [redacted] 推定

一 死因 [redacted] 昭和九年九月二十日 [redacted] 推定

一 死因 [redacted] 昭和九年九月二十日 [redacted] 推定

一 遺族 [redacted] 遺族 [redacted]

一 遺族 [redacted] 遺族 [redacted]

一 遺族 [redacted] 遺族 [redacted]

昭和十二年六月十日

現認證明書

本籍地 [redacted]
現住所 本籍地 = 同一

氏名 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日生

所屬部隊 第五百五師團司令部付

官等級 陸軍上等兵

徵集役種 陸軍 昭和三年徵集 步兵

死亡年月日 昭和十九年九月廿一日

死亡場所 ルソノ多北端ノ海中

死亡区分 戦死

死亡事由 又は病名 肺病 年月日

現認事 昭和十九年九月廿一日午前、所屬敵艦に、攻撃
ヲ受ケ沈没ス (船名 [redacted] 又ハ艦)

遺骨の有無 無

遺族現住所 續柄 妻

右相違 無 長男 [redacted] 三男 [redacted]

現認官等級 陸軍上等兵
所屬部隊 第五百五師團司令部付
現住所 [redacted]

昭和二十年 五月二十四日

事實
死亡證明書

本籍地

所屬部隊
(通稱號)

飛行第十五戰隊
(成第八三五部隊)

昭和

年徵集

中尉

右之者昭和十九年

九月二十日

三浦東ノ附近

ノ戰闘ニ於テ戰死シタルコトヲ證明ス

昭和二十一年十二月十八日

調製官

元飛行第十五戰隊長

3-12

卷之九
留學理書

地方世話部

52-10

現認(死亡)証明書		昭和 年 月 日		地方世話部	
所屬部隊	固有姓名	通稱	年 月 日	年 月 日	年 月 日
役	兵	官	死	死	死
理	後	後	後	後	後
死年月日時	死亡場所	死亡原因	死亡場所	死亡原因	死亡場所
昭和 年 月 日	死亡場所	死亡原因	死亡場所	死亡原因	死亡場所
死亡區分	傷病名	傷病名	傷病名	傷病名	傷病名
戦死	傷病名	傷病名	傷病名	傷病名	傷病名
發(受)病(傷)年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日
昭和 年 月 日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日	准士官以上 住居年月日
死亡時	遺留品	遺留品	遺留品	遺留品	遺留品
死亡時	遺留品	遺留品	遺留品	遺留品	遺留品
の状況	の有無	の有無	の有無	の有無	の有無
の状況	の有無	の有無	の有無	の有無	の有無

昭和
25年
5月
12日

地方世話部長

殿

所屬部隊
現住所
官等級氏名印

出生地		[Redacted]	
所属部隊		輝二六八部隊	
年	月	日	名
昭和	9	22	曹長
役	姓	兵	曹
曹	曹	曹	曹
守	住	所	本籍二同
苗	氏	名	父 [Redacted]
死亡年	死亡月	死亡日	死亡場所
昭和	9	22	戦死
死亡原因	爆死		
死亡場所	野戦自動車隊		
死亡原因	爆死		
死亡場所	野戦自動車隊		
死亡原因	爆死		
死亡場所	野戦自動車隊		

昭和九年九月二十二日午前時の空襲にて防空壕に入られしむけに足元の所は落下せる爆弾の爲め壕内にて戦死せられたり

右の通り相違なきことを証明する。

昭和九年五月十四日

本籍地 [Redacted]

(現住所) [Redacted]

元所属部隊 輝二六八部隊

階級氏名印 曹長 [Redacted]

1918
7.10
臨時調査
以島

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 威八九六部隊

二、徵集年 大正四年 役種 務備 兵種 歩兵

三、官 等(死歿前) 中尉(死歿後)

一、氏 名 [Redacted] 年 月 日生

二、死歿場所 此島 外

三、死亡原因(事由) 前線 砲撃 死歿 原因 不明

四、死歿年月日時間 昭和九年九月二日

五、死歿者本籍地(留守所) 東京府

六、遺骨遺品の有無、及内地運送方法 イン

本 府 調 査 部

昭和九年 月 日 元所屬部隊 威八九六部隊

現住所 [Redacted]

元官等級 [Redacted]

氏名印 [Redacted]

(註) 死亡事由、場所ハナルベカラシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ、生死不明ニナラセハソノ證據ヲシラシク知ラセドサイ

宛 先

地方世話部認定係



状況不明者の資料届

本籍地

所属部隊固有号 歩兵第六六联隊

通称号 基第二八〇ニ部隊

上等兵

昭和十九年九月二十五日飛行機の爆撃により「ケ」兵站病院に於て戦死す

基第二八〇ニ部隊

131-10

死	亡	現認證明書
所屬部隊名	據第一二四二部隊	
官等級氏名	陸軍衛生上等兵	
不籍地		
死亡年月日	昭和十九年九月三十日午後十時五十分	
死亡区分	戦死	
死亡場所	上海狭中突	
傷病	無之	
遺体採取状況		
現認事項	同レ部隊ニ依リ同邦ニテ埋葬セラルルニ依リ現認ス	
所屬部隊名	據第一二四二部隊	
官等級氏名	陸軍衛生部長	(印)
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		
死亡区分		
死亡場所		
傷病		
遺体採取状況		
現認事項		
所屬部隊名		
官等級氏名		
不籍地		
死亡年月日		

昭和三年五月五日調製

一六五

死亡場所

病院

死亡年月日

昭和九年九月十五日

死亡区分

ヌラリヤ
カシケ
セナリヤ
三葉草

受傷箇所

72

病	名
年	
月	
日	

マリア、サン・セバスチアノ
昭和十九年七月

由 毒 祖 傳

九月 御名院
西名
マナリヤ
セキリヤ
カッ
ヤ

廿九日

九所屬部詩

威
六
五
〇

南
蘇
地

現住所

階級氏名

氏名の年以子捺印

意注。上註記

正澄公の時甲撤れ耀定なる時は乙

48-12

李

48-13

[illegible]

死 亡 證 明 書

[illegible]

卷一百一十五

日訓
課
者製訓

8-D-19

○肥藏上の注意並に履歷欄は裏面にあり（肥藏上の注意をよく讀んでから記入の事）

第一

現 認 證 明 書

本 地

死 亡 時 所 在 地

戸 主 氏 名

及 其 氏 名

生 年 月 日

[Redacted]

長男

[Redacted]

此島ノイテ島ヲクハシ市西方約十五ヶ山

昭和十九年十月三日二十時。分散野砲の破片ニ因リ死亡
所現認證明人ハ當時本人ト行動ヲ共ニシ右ノ事實ニ関テキコトヲ

昭和十九年十月三日

現在所

昭和十九年十月三日

何卒、此の度、修務、申す事
り、確、認、書、二、部、を、取、付、下、さ
す、此、の、度、修、務、申、す、事

早々、致、具、

ハ、カ、ニ、ナ、ル、

留守業務部、中、

昭和二十一年 月 日 第 號

地方世話部 死亡者 認定票

昭和二十一年 月 日 第 號

所屬部隊名 百師野藏 通稱名 一三四九

本籍地

年 昭 予 種 役 種 兵 衛生 級等官 前亡死 伍 後亡死 氏 名

死亡年月日時 昭 19 10 22 00 死亡場所 海峽 東一三三、三三、海上

死亡區分 戰死 傷病名 海没漂流中 (津山丸)

現住所 本籍地 同

遺骨 無 氏 名

右通 現認

認定 調査 及 料資 料資 入ノ 手經路

美軍野戰病院 陸軍衛生隊

判決	官給	等級	級	檢	印	認定	進級	告知	記録

死亡者調查表

地方止
日調製
者印

⑩ 記載上の注意並に履歷欄に於ては、記載上の注意や、誤入の事、
本書中※印の欄以外は、誤記部にて訂正すること

現認證明書

本籍地

現住所

右同

氏名

所屬部隊

官等

徵集後種英種

死亡年月日

死亡場所

死亡区分

死亡事實

遺族

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

遺族有無

遺族現住所

[Redacted]

[Redacted]

陸軍遺失第一〇六八二部隊

安長

昭和三年

昭和十九年

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

死

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

地方世話部

秋川耕

死亡現(確)認書

第 1198 号

所屬部隊	國有	官署	通稱	氏名
敬種	種	種	種	種
本籍地	本籍地	本籍地	本籍地	本籍地
留守擔當者	本籍地	本籍地	本籍地	本籍地
任所擔板氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
死亡年月日	昭和9.10.18	昭和9.10.18	昭和9.10.18	昭和9.10.18
死亡場所	東京府内	東京府内	東京府内	東京府内
死亡原因	戦	戦	戦	戦
死後事由	海	海	海	海
遺骨遺留品	なし	なし	なし	なし

現(確)認する
昭和三年十月十八日

旧所屬部隊
旧官署
死後事由
現住所
氏名及捺印

東京府内
大塚
氏名及捺印

留守名簿

114
15

本籍地
に同じ

服	19	10	18	110	原	産	12
---	----	----	----	-----	---	---	----

三才圖會
卷之八
雜考
雜考

張氏

海
波
甲

命	レ		
---	---	--	--

右項(左)認為

昭和三年十二月十八日

防衛大隊

完隄軍以替

五

环境新

氏
無
及
孫
坤

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

此書係...

[illegible]

右
現(確)認する
昭和三年十二月十八日
旧折尾部隊
旧官高等級
死亡者との関係
現任所
氏名及捺印
田口防衛
大隊
大隊



文

甲 甲 中

留公
114
發送濟

元陸軍軍醫
同部隊戰友

[illegible]

[REDACTED]

名海

和民

死亡現(確)認書

所屬部隊	國有	姓名	官職	通稱	前名	別名	日誌
年級	種族	昭和十八年	一等兵	官軍	前名	別名	日誌
本籍地	留守擔當者	本籍地	同				
任所	擔當氏名	元					
死亡年月日	昭和十八年	十月	十八日				
死亡場所	昭和十八年	十月	十八日				
死亡原因	昭和十八年	十月	十八日				
遺骨遺留品	昭和十八年	十月	十八日				

右現(確)認書
昭和十八年十月十八日

現住所
昭和十八年十月十八日

昭和十八年十月十八日

留守	部認定	真險	真險
留守	部認定	真險	真險

死亡現(應)認書

所属部隊 固有名
年級 種 類
種 類
官 位
通 稱
能 上 等 兵 一 等

本籍地

留守擔當者 本籍地

住所續氏名

事

死亡年月日

昭和十六年八月

死亡場所

朝鮮 八里

死亡原因

死 亡

遺骨遺留品

海 没

遺骨遺留品

有

甲 甲 甲

現(確)認(証)書

現(確)認(証)書

昭和三年十二月十八日

旧所属部隊

旧官等級

死亡者との関係

現住所

氏名及捺印

集 1198 送

印

所属部隊 姓名 氏名



新 所 屬 部 隊 固 有 名	徵 兵	年 種 種	本 籍 地	留 守 擔 當 者	住 所 變 換 氏 名	死 亡 年 月 日	死 亡 場 所	死 亡 區 分	死 亡 事 由	遺 骨 遺 留 品	右 現 (確) 認 す る 昭 和 三 年 十 月 十 八 日
	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	
	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	現 住 所 氏 名 及 捺 印
	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	

昭和三年十月十八日

現住所

氏名及捺印

昭
和
三
年
十
月
十
八
日

現
住
所

氏
名
及
捺
印

北

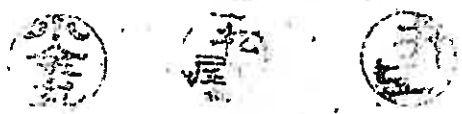
南

東

西

氏名及捺印

543



死亡項 〇〇〇〇

所屬部隊

國籍

通稱

翼 114 飛送済

年級

昭八 予 歩

〇〇〇〇

本籍地

〇〇〇〇

〇〇〇〇

留守擔當者

本籍地

〇〇〇〇

任所續後氏名

母

〇〇〇〇

死亡年月日

昭八 八 八

甲

〇〇〇〇

死亡場所

〇〇〇〇

甲

〇〇〇〇

死亡区分

戦死

甲

〇〇〇〇

遺骨遺留品

海 没

〇〇〇〇

〇〇〇〇

志規 (確) 認する

昭和三十二年十一月十八日

旧所屬部隊

マニラ防衛

大隊

旧官等級

元陸軍中佐

死亡者との関係

同部隊戦友

現住所

〇〇〇〇

氏名と捺印

〇〇〇〇

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 第一五三三七部隊
- 一、徵集年 昭和九年 役種 兵 補給兵
- 一、官階(死歿前) 上等兵 (死歿後) 上等兵
- 一、氏名 [Redacted] 日生
- 一、死歿場所 [Redacted]
- 一、死亡原因(死歿事由) 戦病死(マラリヤ病ニテ死亡シタル事)
- 一、死歿年月日時 昭和九年十月五日 午後五時頃
- 一、死歿者本籍地留守府當番者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和九年十月五日

現住所 [Redacted]

元官等級 [Redacted]

氏名印 [Redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベシクワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナシタ者ハソノ前後ヲクワシクオ知フセ下サイ

宛 先 [Redacted]

地方世話部慰恤係

4-12

現認證明書

地方世話部

現認證明書

地方世話部

陸士五成五十四枚(墨)

所屬部隊
本籍地

集徴隊
3

和服系

植丸兵

歩兵

二等兵

死亡階級

後亡死

軍事

名氏

死亡年月日時

昭和

19年

10月

20日

午前

時

分

死亡場所

七島中セテ陸軍病院

死亡區分

凶死

病死

病死

病死

病死

病死

病死

死亡事由

マラリヤ

留守宅住所氏名

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

継父

ハ昭和十九年九月二十日頃ヨリ
マラリヤニカカリ、十月一日セテ陸軍病院
ニ入院シ、十月廿四日死去セリ

死者の死別と喪

状況の時當亡死

東京へ歸り、共同生活員として勤務セリ

右現認證明致します

昭和22年2月18日

署認現

官等氏名	所屬部隊	現住所	本籍
陸軍上等兵	陸士五成五十四枚(墨)	右同	〇〇〇

(三) 第三、一讀(陸上)

印補、記入、下、前、確、資料、補、出来、得、限、詳細、記入、
 台、明、張、入、年、下、月、所、發、病、年、月、日、病、入、注、有、場所、等、
 台、明、張、入、年、下、月、所、發、病、年、月、日、病、入、注、有、場所、等、

現、部、者、 官、手、便、文、者、 (印)	入、院、中、 理、部、者、 理、部、者、	入、院、中、 理、部、者、 理、部、者、	入、院、中、 理、部、者、 理、部、者、	入、院、中、 理、部、者、 理、部、者、	入、院、中、 理、部、者、 理、部、者、
--	---	---	---	---	---

現 認 書

陸軍々曹

部隊名

第廿六師團歩兵第九聯隊第六中隊

戦死當時階級

陸軍軍曹 (發令年月日 不明)

死亡事由

左胸部 貫通銃創

戦死状況

中尉、指揮官肉攻隊(一ヶ隊)ニ参加
昭和十九年十月三日「ライデー」島「タボンクボン」
南方四軒地奥ヲ北上中、敵戦車群中ニ
突入、右事由ニ依リ戦死

現認者住所

所居部隊名

階級氏名

第廿六師團歩兵第九聯隊第六中隊
陸軍々曹

右現認者

現認證明書

9-11

本籍地 [redacted]
現住所 [redacted]
所屬部隊 陸軍憲兵隊トコテ憲兵分隊

現役陸軍憲兵隊長 [redacted]
[redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日生

一 死亡状況

1 死亡年月日 昭和十九年十月二十五日

2 死亡区分 戦死

3 死亡場所 比律賓ネグロス島東ネグロス州

二 留年擔當者住所續柄は名

[redacted]

實父

[redacted]

三 現認者住所官氏名、元所屬

[redacted]

陸軍憲兵隊長

[redacted]

トコテ憲兵隊トコテ憲兵分隊

籍地

現
・比
所

徵集昭
凡
年

從班予備兵官等校

死亡前陸軍上算兵
死亡後

留守適當者
住 所

八、
公

年
月
日

續
前
妻
氏
前

內地港灣出發年月日

到省年月日

勤務 / 概異

昭和十九年八月三日臨時召集各里西郡力七四部隊三員召二日力
十五錄我應行隊要員十三人聯我完結今年十月八日輸送部養
洋几三乘船開可港水帆今年十月十二日七時十分發不島北力
八月三日海軍省令發着可人負而次野呂島今輸送部水帆召中三票派不

受難年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

發病(受傷)場所

比律濱呂宋島北方バリタン海峡

病名(受難)部位

發病(受傷)時狀況

輸送船被洋丸敵魚雷命中、沈没、タメ海中ニ漂流戦死セリ、

死亡年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

死亡場所

比律濱呂宋島北方バリタン海峡

死亡區分

戦死

死亡時ノ狀況
(或ハ可ハ辭源)記入

昭和十九年十月二十六日午前七時十分バリタン海峡ニ於テ敵潜水艦ヨリ魚雷攻撃ヲ受テ乗船被洋丸ニ番船被命中、船中ニ火災ヲ生ジタル中ニ全員海中ニ退避シ、同日午後救助一隊ハ日ニ至リ時頃迄ニ救助セザレタルモノハ遂ニ救助セラズ戦死セルモノナリ

右説明ス

昭和二十一年四月十五日

本淨地

所屬部隊

第八飛行師團司令部第八飛行場大隊

官等級

團員 曹長 比

◎註一

部隊名ハ周有名、並ニ其ニ記ス・コト

二

醫師 登録ヲ有スルモノハ送付書及於テ姓名年月ヲ録白ニ記入ノコト

發病(受傷)年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

發病(受傷)場所

比律賓呂宋島バリニタン海峡

病名(受傷)部位

發病(受傷)時狀況
輸送船被洋九敵魚雷命中沈没ノタメ海中ニ漂流戦死セリ

死亡年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

死亡場所

比律賓呂宋島バリニタン海峡

死亡區分

戦死

死亡時ノ狀況
(或ハ可ク詳細記入)

昭和十九年十月二十六日七時十分バリニタン海峡ニ於テ敵潛水艇リノ魚雷攻撃ヲ受ケテ船被洋九ニ番船ニ被リ雷命中シ沈没シ漂流中ニ戦死セリ
生シタル全員海中ニ没スルニ至リ救助セザレバモ本ハ八人ニ救助セザレバモ戦死セリト認ム

右 證明ス

昭和二十一年四月十五日

本 籍 地

所屬部隊 第八飛行師團第百十八飛行場大隊

官等級 陸軍 曹長 比

註一 部隊名ハ固有名、並ニ略稱共ニ記ス コト

昭和十九年十月二十六日七時十分 比律賓呂宋島バリニタン海峡ニ於テ敵潛水艇リノ魚雷攻撃ヲ受ケテ船被洋九ニ番船ニ被リ雷命中シ沈没シ漂流中ニ戦死セリ

事實證明書

籍地

現住所

所屬部隊名(同有)

兵第三航空軍司令部 (通稱號) 司第九八三部隊

徵集期

九年 役期一補兵 步兵 官等

死亡前陸軍一等兵 死亡後

氏名

生年月日

留守者

住所

親類

父

氏名

内地港灣出發年月日

昭和十九年十月八日

戰地到着年月日

勤務ノ概要

昭和十九年八月三日臨時召集三依り西部隊第七四隊應召同日中
主隊成龍行隊要員トシテ補給完結、今年十月八日輸送船長洋九
二乗船門司港本願、今年十月十五日十分島米島ハリソン海峽ニ於テ

3-12

年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

發病(受傷)場所

比律賓呂宋島北方バリタン海峡

病名(受過)部位

發病(受傷)時/狀況

輸送船被洋九敵負雷命中沈没ノタメ海中ニ漂流 戦死セリ

死亡年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

死亡場所

比律賓呂宋島北方バリタン海峡

死亡區分

戦死

死亡時/狀況

昭和十九年十月二十六日七時十分バリタン海峡ニ於テ敵潜水艦ヨリノ負雷攻撃ヲ受ケテ乗船被洋九ニ被命中シ大炎ヲ生シタル中全員海中ニ退避其ノ一經ハ午後救助一經ハ翌日午後五時頃迄ニ救助セラレタルモ本人ハ遂ニ救助セラレズ戦死セルモノト認め

右證明人

昭和二十一年四月十五日

本學地

所屬部隊 第八飛行師團第百八十八飛行場大隊

官等級 團曹長 氏

◎註一

一部隊名ハ開有名、別冊附非ニ記シ、
二醫師、登録ヲ有スルモノハ登録番號及シテハモト

106

發病(受傷)年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

發病(受傷)場所

比律賓呂宋島東方バリニタン海峡

病名(受傷)部位

發病(受傷)時狀況

輸送船泰洋丸負雷命中沈没、タメ海中ニ漂流戦死セリ

死亡年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

死亡場所

比律賓呂宋島東方バリニタン海峡

死亡區分

戦死

死亡時、狀況

昭和十九年十月二十六日七時十分バリニタン海峡ニ於テ敵潜水艦ヨリノ負雷攻撃ヲ受ケ、乗船泰洋丸ニ番船三隻雷命中、大炎災ヲ生ジタルメ、全員海中ニ退避、其一部ハ八月廿四日午後五時頃延ニ救助セシメ、本八八隊ニ救助セラレタリ

右 説明

昭和二十一年四月十一日

本 簿

所屬部隊 第八飛行師團第百八十八飛行場大隊

官等級

團員 曹長

氏名

◎註

一 部隊名ハ固有名称、並ニ機體共ニ記シ、二 醫師、登録ヲ有スルモノハ登録番号及ニ機體名ハ記ス

事實證明書

一、籍地
現住所

所屬部名（固有）第三航空軍司令部（通稱號）司第九八三部隊

徵集

年 役 預予備兵 百等 死亡前陸軍軍曹

死亡後

留守担当者

住所

氏名

生年月日

親 父 氏 名

內地港灣出發年月日

陸地到着年月日

昭和十九年十月八日

勤務ノ概要

昭和十九年八月二十日駐時召集三三西部第七部隊三應召同日才
十五號成龍行屬隊要員十三號成龍完結今年十月八日輸送船義洋
九三號船內有本島今年十月二十日七號輸送船義洋
一三號船內有本島今年十月二十日七號輸送船義洋

昭和十九年十月二十三日七時十分

比律濱呂宋島北方バリニタン海峡

名(受)部 位

病(受傷)時/状況 輸送船泰洋丸敵魚雷命中沈没ノタノ海中ニ

漂流戦死セリ

死亡年月日 昭和十九年十月二十三日七時十分

死亡場所 比律濱呂宋島北方バリニタン海峡

死亡原因 戦死

死亡時ノ状況 (成)可(詳)細(記)入
昭和十九年十月二十三日七時十分バリニタン海峡ニ於テ敵潜水艦ヨリノ魚雷被撃テ受テ泰洋丸番船船ニ命中シテ沈没シタルヲメ、全員海中ニ退避、其ノ一、同日午後五時頃迄ニ救助セシタル日本人八名ニ救助セラレズ戦死セシモノト認め

右 要明 ス

昭和二十一年四月十九日

本 簿 地

所属部隊 第八飛行師團第百八十八飛行場大隊

官等級 陸軍曹長 氏

◎註一部隊名、固有姓名、並稱職共ニ記ス。コト

一 醫師ノ登録ヲ有スルモノハ登録番號及姓名ヲ校舎前ニ記入ノコト

事實證明書

一 籍地
現住所

所屬姓名

(固有左) 第三航空軍司令部 (通稱號) 司第九八一三部隊

徵集昭五年

役期 補

兵部兵 官等

死亡前 陸軍一等兵

氏名

生年月日

留守諸當者

住所

籍柄

氏名

内地港灣出發年月日

昭和十九年十月八日

離地到着年月日

勤務ノ概要

昭和十九年八月三十日臨時召集ヨリ西郷市七四部隊三組員同日市十五
二乗船門司港本航、公年十月十七日分呂宋島地方バリタン海峽
於下敷落ヨリ、負傷、送、死、没、海中、三、乗、流、

發病(受傷)年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

發病(受傷)場所

比律濱呂宋島バリタン海峡

病名(受傷)部位

發病(受傷)時/狀況

輸送船被洋九敵魚雷命中沈没ノタメ海中ニ漂流戦死セリ

死亡年月日

昭和十九年十月二十六日七時十分

死亡場所

比律濱呂宋島バリタン海峡

死亡區分

戦死

死亡時ノ狀況

昭和十九年十月二十六日七時十分バリタン海峡ニ於テ敵潜水艦ヨリ魚雷攻撃ヲ受ケ來船被洋九ニ番被命中大炎ヲ生ジタルヲ全員海中ニ退避共ニ翌八日午後五時頃救助セラレズ戦死セルモト認め

右説明入

昭和二十一年四月十五日

本簿地

所屬部隊 第八飛行師團 第八飛行場大隊

官等級

團曹長 比

◎註一

部隊名ハ周有名、並稱號共ニ記コト
二 醫師、登録有ルモノハ登録番號及姓名、卒年月日、録白ニ記入ノコト

戰歿者認定(證明)書

一 死歿者所屬部隊名(通稱號) 海校基一八六

一 徵集年 昭一四 役種 予備役 兵種 步兵

一 官等級(死歿前) 陸軍兵長 (死歿後)

一 氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

一 死亡場所 ハシ一海峽 (泰洋丸)

一 死亡區分並ニ事由 戦死 海没

一 死亡年月日時 昭和十九年 十月 廿六日 八時 30

一 死歿者本籍地 [Redacted] 市 [Redacted] 町 [Redacted] 番地

右確認ス

昭和十九年 四月 廿五日

元所屬部隊名 海校基一八六隊

現住所 [Redacted]

元官等級 陸軍上等兵

氏名 印 [Redacted]

（一）基礎建設

所屬部名

徵集年

役種

1

官紳死後制



3.

氏名

死致賜所

死國分地

死後年月日時

王敦不難地留之

右鐘認證明ス

昭和六年

21

26

恒 豐 號

氏名

[illegible]

竊
生

良辰美景第一
張氏詩話

事實證明書

本籍地

所屬部隊

(通稱號)

役種徵集年

官等級氏名

陸軍 軍曹

豫備役

昭和八年徵集

右ノ者

自昭和十一年十月十日
至昭和十一年十月十六日

間比島 轉送輸送途次

ニ於テ

勤務

昭和十一年十月三十日

バシ海峽海上戰鬥中

金身爆創

昭和十一年十月

年 月 日

ニ於テ

戦死シタルコトヲ證明ス

昭和二十二年一月八日

(現認者) 弘前野砲隊第八聯隊大隊中隊

副隊長

現認証

本籍地

部隊名

官等氏名

死亡年月日

死亡場所

死亡区分

死亡理由

右現認証

垣六五五五部隊

陸軍少佐

昭和十九年拾月参拾日

小島、レイテ島、ダガマ附近

戦死

砲裏に依り大隊本部を碎く

本籍地

部隊名

官等氏名

垣六五五部隊

陸軍少尉

陸軍少尉

事實(現認)證明書

所屬部隊

固有部隊名

通稱・號名

官等・級氏名(死亡前)

陸軍少佐

スナトラ收遺死シタルコトヲ證明ス

12-12

本籍地

現住所

右ノ者昭和十九年

月

日 時 分

昭和三十九年

一月二三日

ニ於テ遺死シタルコトヲ證明ス

固有部隊名

スナトラ收遺死シタルコトヲ證明ス

通稱・號名

本籍地

官等・級氏名(死亡前)

陸軍少佐

右陸軍少佐

規勸證明書

本籍地

黨部隊

第八卷

(通稱子市)

第一卷 二部 後

徵集年
和心

年役檀

役官等殿

卷八

氏名

右の者

[illegible]

第九節 行場大塚衛生會

現認證明書

本籍地

左衛部隊

(通稱子布)

市八九種紅場六商
類一入五三部隊

第一五二部隊

徵集年記
和心

年役禮

役官殿 一署

氏名

右の者

中場七ツとミルナト下群ミチバミツイヨリ丸通球ミル際
 左ニ救助サレミガ十一月一日船上ニテ歿スミルルノ現認ス

左に敬助がしるし
 十一月一日 船上ニテ歿スル
 一 考証

天九種特場大陽攝生書

昭和二十年二月五日

留守業務部長殿

歸還軍人ニ依ル首題ノ件左記ノ通り報告ス

追而
本件ハ左記認者ノ中ハ依リ調製シタルモノニシテ當部ニ於テハ公
報等處理シアラサルニ付爲念部隊彙モ終リ遺骨ハ未軍ニ陸當日焼却ス

比島派遣	所屬部隊
二月 二日	死
パイリピン イロク東北 一五キロ地矣	場所
戦死 (地雷爆傷)	事由
予備 大正八年 龍雲兵	認識密役種 番號兵種
兵	官等級
長	氏
本籍地ト同じ	名
妻	本籍地 留學担当者現住所 姓氏

右現認人

所規
為新
際出

咸第一〇六八部隊（第四十三教育飛行隊）

官等叙及前陸軍之舊員

平務兼守留

21.2.14

和

2043

付愛

14-12

死傷者確報（證明）書

死傷者姓名

同前名 第五大隊團長 佐野 第五大隊第二中隊
指揮官 第五大隊 佐野 隊

死傷者職名

臨時中隊指揮官 現役 步兵

死傷者階級

中尉

死傷者部

近衛師團 步兵

死傷者

佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者證明書

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者

近衛師團 步兵 十一月 三日 佐野 隊

死傷者證明書

死歿者確認（證明）書

一 死歿者所屬部隊名 同有 第三大隊團獨立步兵第三十二聯隊第三中隊
通稱號 成第五三五部隊

一 徵集年、役種、兵種 昭和十七年徵集 現役 歩兵

一 死歿者本籍地

一 官 等 級 死前 陸軍上等兵 死後 陸軍

一 氏名 生年月日

一 死年月日時刻 死因 昭和十九年十一月三日午後二時 日分

一 死亡場所 レイテ沖外

一 死亡事由 就傷病死（死後、遺骸発見）
船中ニ於テ航行機、機銃掃射、依リ左大腿部負傷後、所向ヲ
經テ歿死

一 遺骨状況 遺髪ヲ取ルモ其後不明

右確認（證明）ス

元所屬部隊名 成第五三五部隊
元官等級氏名 陸軍上等兵
後遺年月日 昭和二十年十二月十二日

死歿者事由、死後詳細、遺骸後死後、生歿不明、前後状況ヲ詳細ニ記入シテ下ツイ

4-11

地方世話部

比島方面軍（才一七九・三）部隊（独立三二大隊）

留守宅住所氏名

義
死

板柄

五

昭和十九年十二月四日午南四時三十五分五十四分團司令部に作業中敵機一機の
シロイ機襲来司令部にバクタン落下より不幸一弾はに作業中
の背中に破片命中より直ちに病院に入れたるも戦死せられたりと当時
君と共に作業に従事せし戦友

戰友

右現認證明致します

昭和
22
年
2
月
10
日

現 認 者

官等氏名	陸軍上等兵
現住所	石同
所屬部隊	第一七六。三部隊朱兵 三八二部隊

宣等氏名

陸上等次

On

1

所屬部隊

一

三都隊朱文三六二番隊

10

現住所

右

1

本
籍

1

100

1

大川網

52-10

死
亡
現
認
護
明
書

[illegible]

昭和二十一年

進

47

月

2

製

—

1

28-10

[illegible]

○本表中捺印の欄以外は世話部にて記入すること
○記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり（記載上の注意をよく讀んでから記入の事）

戰時死亡者現認證明書

國師六名 八六六六六六		隊部属所	
19.11.10		時日月年	
死		場所	
比島 レテイ島 ダガミ 山中		戦	
死		事由	
砲彈被弾 兼小銃傷 連通死		遺体	
遺体		遺体	
大		氏名	
氏名		本籍地	
氏名		氏名	

右現認入

現住所

所屬部隊

第十六師団 砲兵第三十三聯隊 第三大隊

官第級氏名位長

印

調製上ノ注意

- 一 所屬部隊ハ通称固有部隊名ヲモ記入ノコト
- 二 死を樹ハ出死得ル限リ詳細ニ終ニ事由ハ傷痕名ヲ詳シク記入ノコト
- 三 遺体発見過樹ハ「何處有ル場合ハ何處ニ下リテ現地上陸地ニ局ヨリ
- 電等記入ノコト
- 四 認印ヲ忘レヌコト

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日

地方世話部

所屬部隊

固有な

船泊通信隊

通稱

威二九五五部隊

年 月 日 時

兵

官

前

死

後

死

氏

名

生

年

月

日

生

日

生

日

生

日

生

日

生

日

生

日

死亡年月日時

昭和九年十一月十七日

午前七時

死亡場所

レイテ島タラバシ

生

日

生

日

生

日

死亡区分

戦死

傷病名

頭部貫通銃創

生

日

生

日

生

日

發(受)病(傷)年月日

昭和九年十一月十一日

推士官以上

任官年月日

生

日

生

日

生

日

死亡時刻

昭和九年十一月十七日

遺骨

遺品

の有無

生

日

生

日

生

日

状況

昭和九年十一月十七日

遺骨

遺品

の有無

生

日

生

日

生

日

右證明候也

昭和九年五月十一日

所屬部隊

船泊通信隊

遺骨

遺品

の有無

生

日

生

日

生

日

現住所

官等級氏名印

地方世話部長

地方世話部長

官等級氏名印

殿

地方世話部長

62-10

現認証明書

本籍地

現住所 本籍ニ全シ

留學担当者及續柄

長男

步兵第一聯隊第一中隊第二分隊第三分隊

陸軍上等兵

右ノ者昭和十九年十一月五日ヨリ十二月二十一日ノ間ニ在リテ
トテ島リモン決戦ニ参加シ同年十一月十五日午後五時ヨリ至
附近ノ戦場ニ於テ第一中隊指揮官等トシテ奮戦中
敵手捕獲ノ直覺ヨリ流亡北逃ナル戦死ナシ
右現認ス

昭和二十年一月十五日

步兵第一聯隊第一中隊

陸軍上等兵

13-10

寫

狀況不明者資料不足

本籍地

所属部隊 固有名歩兵才五七聯隊

通稱名 玉才五九一六部隊

一等兵

昭和十九年十一月一日レイテ島オルモツ嶺に上陸、その日に始まった
戦斗に参加中昭和十九年十一月十八日全身爆撃を受け戦死
す(目撃)遺骨遺品なし

玉才五九一六部隊

上等兵

事實證明書

姓名 船名 籍貫 年齢 性別 職業 備考

氏名 生前年月日 年 月 日 死 年 月 日

留守 係當 規住所

年月日 昭和十九年十月二十日

場所 巴ノ海浜

區分 死 死

本 人 七 承 知 事 下 報 告 日

左 証明 可

昭和二十年五月五日

現住所

所屬部隊

機 關 係 二 部 隊 機 關 係 二 部 隊

官 軍 級 任 軍 中 少 佐

結 婚 妻 氏 名

年 月 日 生

日 本 海 一 比 与 同 心 之 海 浜 於 了 魚 雷 攻 撃 中 死 於 船 上 其 死 後

遺 留 品

此 為 本 人 收 容 所 有 之 財 物 於 昭和二十年一月九日 佐 世 傳 上 庭 經 理 了

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日
地方世話部

所屬部隊	固有名称	通稱
船組工兵第三四聯隊		
年 級	役 種	兵 種
死亡年月日時	昭和十九年十一月十日 午前二時十分	死亡場所
死亡區分	戦病死	傷病名
發(受)病(傷)年月日	昭和十九年十一月十一日	准士官以上 任官年月日
死亡時		
死亡時		
の 状 況	昭和十九年十一月十日、重傷マラリヤに罹り、今日、午後三時、南方平野の地、突然戦病死セリ	
遺 留 品	重 傷 有 無	

右 證 明 候 也

昭和二十三年 五月十一日

所屬部隊
現 住 所
官等級氏名印

地方世話部長

殿

57-10

階級氏名	同	親戚住所	親戚住所	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
階級氏名	同	親戚住所	親戚住所	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
階級氏名	同	親戚住所	親戚住所	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

昭和十九年十月十七日比島ルンバコエ村陣地作中發病の
ため同月同日陸軍病院へ入院十月二十日に赤痢にて死せし
(死体同病室に於て埋葬せり)

死亡確証 申告書
19.11.20 戦病死
陸軍病院
上等兵
遺族 本籍地
現住所
遺品
有無

地方世話部

大川納

死亡者確認（證明）書

一 死亡者所属部隊名 固有名 独立歩兵第十聯隊

一 徵集年(舊年)役種 通稱 泉第五三(五)部隊

一 死亡者本籍地 昭和十八年徵集 現役 歩兵

一 官等級(舊年) 死亡前陸軍一等兵

一 氏名 小島 昭幸 死亡後陸軍一等兵

一 死亡年月日 昭和十九年十一月二十三日 午前九時十分 戦死

一 死亡場所 レイテ島 オリモク 附近

一 死亡事由 (戦死) 戦死(戦死) 戦死(戦死)

一 遺骨 遺品 状況

右確認（證明）ス

第五三五部隊

昭和十九年十一月二十三日

昭和十九年十一月二十三日

17-11

死亡者確認（證明）書

一 死亡者所属部隊名 同有者 独立歩兵第十二聯隊

一 徵集（發見）後種別 兵種 昭和十四年徵集 口兵殺 歩兵

一 死亡者小指地

一 官等（級）（年）（月）（日） 死亡前陸軍上等兵（昭和十四年三月） 死亡後陸軍

一 氏名 生年月日 年 月 日生

一 死亡年月時刻 死亡箇所 昭和十九年十一月二十四日午後八時。分戦死

一 死亡場所 オルモック

一 死亡事由（戦場死か、非戦場死か、何處で死す）

一 遺骨（遺品）状況 遺骨は受領す

右確認（證明）ス

元所属部隊名 現住所 東京市三區三丁目

昭和二十一年四月二十七日浦賀

21-10

氏名

年 月 日生

陳維新

四、戰死年月日時刻及場所 昭和十九年十一月二十四日 廣東省新會縣

五、戰死現認ノ程度 敵機彈中死傷者主失

六、遺骨歸還、有、無

[illegible]

八、死亡區分戰死 事由彈 發病年月日 昭和 年 月 日

九、其他 (上陸後、於死亡者最苦ニシテ申立テ、而モ其苦痛ヲ入班、申立テ、上陸年月日上陸地)

10. 遺族ノ現住所

戰死者下ノ額柄

氏 名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和 年 月 日

證明者住所

戰死者 關保 貞末者

所屬部隊名 第三赤衛隊 地方黨部 土庫沙三鄉鎮民衆會(五區) 第五區黨部

兵種 步兵 官等 陸軍

氏名

品

市町村長證明箇所

右證明者、右庄所ノ厩柱ニテ斷伐直置ナリ、一ノ間ナシ、又、一ノ處石ノ方、

一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、一百

通鑑纂要

戦時死亡者現認証明書

隊部属所		死	
年月日		場所	
分区		事由	
戦死		遺骨(品留)	
戦部要通		役職兵程	
十レ		死前死後	
戦部要通		死前死後	
氏名		生年月日	
本籍地		留外(遺骨)氏名	

右

現住現所
属部隊所

官本
級氏名

陸軍少尉

(印)

調製上ノ注意

- 一 所属部隊ハ通稱固有部隊名ヲモ記入ノコト
- 二 死亡機ハ出来得ル限リ詳細ニ特ニ事由ハ傷病名ヲ詳シク記入ノコト
- 三 遺骨(遺留)機ハ有無ノ場合ハ其所在(現地上陸地海留外宅等)ヲ記入ノコト
- 四 認印ヲ忘レヌコト

10-11

所屬固有名
通稱焉
在八都隊
獨土著兵大隊

本
籍

徵集年役種
死亡前階
昭天年
現役
步兵一等兵

年 月 日 生

留中檐当者住所

續柄

氏名

年月時分

昭和九年十一月二十八日

事由

一 度受傷せしむ 受傷口治リ
マタリアエカリ 衰弱ニ至 死亡ス

喪亡場所

此津廣協同セブナ
西陸軍野立病院

傷病

五分

尋病死

讀

丁

死亡承知の

君卜共二負傷三

言正人復

セバカラレイテ島ニ行キ
昭和二十年十一月浦賀ニ上陸

理由

同
痲
險
二
入
險

經緯

右證明す

和五年五月一日

現住所

所屬部隊西部十七部隊

官等級陸軍伍長

氏名

死亡場所 海峽 戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日 戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

戦死 昭和十九年五月十日

8-10

状況不明者の資料届

本籍地

一等兵

所属部隊

固有名

第一〇二師團司令部

通稱号

戒第一二六八五部隊

昭和十九年十一月三十日、ボガニ警備隊附近の戦斗に小銃手として

参加中、十六時十分敵自動小銃弾により前頭部後頭部穿通性

骨折貫通銃創、右側胸部軟部貫通銃創を受け壯烈なる戦死

を遂げた

遺骨はネギロ島西初ゴロツアグリ辺に埋葬され遺留品なし

戒第一〇六八五部隊

上等兵

5

昭和16

意注の上載記

一現記事田は当時の情況を詳細に記入する
 一其證明書は三部作製する
 一陪葬は必ず死に前記記載する
 一死に区分 戦死の時 受傷箇所を記載する
 一死に場所 死に年月日 死に区分の確定
 一正體なる時は甲種を確定する時は乙種
 一疑はしきものは丙と下の下に記入する

由事証現

有	歿	死
氏名	本籍地	所屬部隊
死に前の階級	死に年月日	死亡場所
死に区分	受傷箇所	死亡年月日
死に場所	死に年月日	死亡場所
死に区分	受傷箇所	死亡年月日
死に場所	死に年月日	死亡場所

有明證

元所屬部隊	由籍地	現住所	階級氏名	氏名の下の必ず捺印する
戦死			大尉	

12-10

丁卯

現職

回省

第...次...

通商...

年

現任

步兵

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

籍地

[Redacted]

[Redacted]

現係

同

右

...

父

[Redacted]

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

內地...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

外地...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

70-11

（初等）

（中等）

（高等）

70.12

（左前右）状況（本人並ニ所属部隊）

（左）六、前線部隊（威嚇等）

（左）新編部隊（機）

（左）（機）

（左）（機）

（左）（機）

見認

（左）機

（左）機

（左）機

（左）機

右之通り認定

現認者

現住所

所属部隊

官手氏名

備考

（判明）（記載）

（認定）（理由）

（備考）

（備考）

比島派遺渡一六呂紅隊
[redacted] 紅隊
[redacted] 隊

陸軍正果兵

右者昭和十九年十月十六日海峽に於て敵潜水艦雷撃に依り乗船セル仁博丸沈没し救助せしる吾等の生存者の中には見受ケルもの海没戦死せるものと認定す。

右證明

民國三年四月十日

元
比
命
流
盡
明
皇
國
部
隊

五陸軍士上矣

五

古竹陸軍少佐

昭和二十九年十一月八日
陸軍省
陸軍省
陸軍省

死亡事實(現認)證明書

本籍地 [redacted]
現住所 本籍地ニ同シ

所屬部隊 陸軍第四七二部隊
徵集年 昭二五 氏名 [redacted] 官等級 陸軍少佐

右ノ者昭和十九年十一月八日 時
分イタリヤニ於テミラリアニ依リ戦傷
病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十九年十二月三十日

所屬部隊 陸軍第四七二部隊 職名 隊長
氏名 [redacted] 官等級 陸軍少佐

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シタルモノハ詳記ス
二、原名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

[redacted] 陸軍省公報記者係

62-11

死者		現		証		明	
所屬部隊名	官年級氏名	本籍地	死亡年月日	死亡区分	死亡場所	傷病名	現認事由
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日
第三十六師團	陸軍一等兵		昭和二年五月八日	戦死	比島	負傷	昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日

記載上の注意

本證明書は、死者の死亡年月日、死亡区分、死亡場所、傷病名、現認事由を記載する。昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日

現住所

陸軍一等兵

現認事由

昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日

死亡年月日

昭和十九年十一月六日

死亡区分

戦死

死亡場所

比島

傷病名

負傷

現認事由

昭和十九年十一月六日敵の攻撃に遭ひ、全滅した。其の時に上陸した。此の戦死に際し、右の通り証明する。昭和二十年四月十四日

所屬部隊名	定葬地	死亡年月日	死亡原因	死時場所	傷病名	遺體處理状況	埋葬年月日	埋葬場所	埋葬者	埋葬方法	埋葬場所	埋葬者	埋葬方法	埋葬場所	埋葬者
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

氏現本

注籍現

地所名

認證明書

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

所屬部隊

隊長

[Redacted]

官等

級陸軍上等兵

一徵集後種子種多無後方兵

一死亡年月日昭和九年十二月八日

一死亡場所多摩川河畔

一死亡原因命戰死

一死亡事由只病名發病年月日

現認事

右方たふし附与、新し、於て戦死

一遺骨の有無 無

一遺族現住所續受

[Redacted]

右相違無可事を證明す

現認者官等級氏名印陸軍上等兵

所屬部隊隊長

現認者所屬部隊隊長

昭和二十二年十月八日

61-10

現認證明書

地方世話

死		亡		者		死		死	
所屬部隊	本籍地	徴集	役	死亡年月日時	死亡區分	留守宅住所氏名	死亡年月日時	死亡場所	死亡事由
被服隊	補	昭和17年12月10日15時	歩兵	本籍地は同じ	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所
前死階級	一等兵	死亡後階級	後死階級	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川

死者は、昭和17年12月10日、下腹部貫通銃創により、即死す。

右現認證明致します

昭和17年12月29日

現認者		本籍		現住所		所屬部隊		官等氏名	
大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川	大川

大川

25-10

公未 93



者 帶 連 長 科 長 部

昭和二十五年

月

日

第 95 號

死亡者調査表

昭和二十二年

五月

七日

調製

製調

整理番	所屬部隊	固有番号	三三四	兵種	衛生	官階	死亡時の官	死亡年月日	死亡時刻	死亡場所	遺体留置品状況	死亡者名	原籍	報告
本籍	籍地	居住地	同	職	衛生	官階	死亡時の官	死亡年月日	死亡時刻	死亡場所	遺体留置品状況	死亡者名	原籍	報告
留守	現住所	同												
擔當者	現住所	同												
死亡年月日	死亡時刻	死亡場所												
死亡原因	死亡原因	死亡原因												
死亡直前の業務	死亡直前の業務	死亡直前の業務												
手入料	手入料	手入料												
経路	経路	経路												
現住所	現住所	現住所												
氏名	氏名	氏名												
官階	官階	官階												
未歸還届	未歸還届	未歸還届												

○本表中捺印の欄以外は世話部にて記入すること
○記載上の注意並に履歴欄は裏面にあり（記載上の注意をよく讀んでから記入の事）

7-10

現認證明書

本籍地

警衛部隊 才八九番付場ス隊

(通稱) 翔一六五二部隊

敬集大志

年役種

役官等級 一等兵 氏名

右の者

才八九番付場ス隊 才八九番付場ス隊 才八九番付場ス隊
入隊者として昭和九年十月一日に就任し
ることを認む

才八九番付場ス隊 才八九番付場ス隊

延吉省明認證州書

所屬部隊	官名	本籍地	死亡年月日	死亡場所	傷處	遺骨遺留場所	埋葬場所	證明年月日	證明人姓名	證明人姓名	證明人姓名	證明人姓名	證明人姓名
延吉省	陸軍上等兵	延吉省	昭和十九年十一月十五日	延吉省	腹部貫通銃創	不明	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省
延吉省	陸軍上等兵	延吉省	昭和十九年十一月十五日	延吉省	腹部貫通銃創	不明	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省
延吉省	陸軍上等兵	延吉省	昭和十九年十一月十五日	延吉省	腹部貫通銃創	不明	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省
延吉省	陸軍上等兵	延吉省	昭和十九年十一月十五日	延吉省	腹部貫通銃創	不明	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省	延吉省

21-11

北平郵局

姓名	李天士	部隊	第一師
職別	兵	第一師	第一師
年齡	21	第一師	第一師
籍貫	山東	第一師	第一師
死亡日期	1941.12.17	第一師	第一師
死亡地點	敵前	第一師	第一師
死因	敵前	第一師	第一師
遺體處理	敵前	第一師	第一師
家屬姓名	李天士	第一師	第一師
家屬住址	第一師	第一師	第一師
家屬職業	第一師	第一師	第一師
家屬健康	第一師	第一師	第一師
家屬教育	第一師	第一師	第一師
家屬婚姻	第一師	第一師	第一師
家屬子女	第一師	第一師	第一師
家屬其他	第一師	第一師	第一師

陸軍少尉

死 證 明 書

死 所 屬 部隊 獨立步兵第十三聯隊第一中隊

本 籍 地 [redacted]

死 亡 年月日 昭和十九年十二月廿三日

死 亡 原因 戰 死

死 亡 場所 北島 [redacted] 東南方高地

傷 病 名

遺 體 保存 場所 十シ

現 認 市 山 死 体 確 認

昭和十九年四月 [redacted] 昭和二十年三月三日

現 所 屬 部隊 獨立步兵第十三聯隊第一中隊

現 所 屬 部隊 陸軍佐長 [redacted]

現 姓 名 [redacted]

昭和十九年四月

[redacted]

123-00

寫

陸軍

乱文ごめん下さい

何時の間にか秋は過ぎ去りし時には冷々とする朝なにもあります様になりまゝた遠い唐瀬の原が黙
つて横たわつてその果に屹ッ都府の跡水塔が淡い運命の象の如く知事ものをとて知らぬ悲しと
をそゝりて見えます復員後米不足とすきようとしまゝてゐる病の身に追放の鞭をうけつゝ
生活に斗ひ生まざる命のせつなさをしみぐとみつめて居ります本日は久方に暮るの山峽に村の
洪達が御芳書届けて下さいました論はあ川人の子であり親である者の心根に如何に裏りかあ
りませう御遺族様方の御心に思ひ侍りますれば私のみながらへし故のつくし難き何ものか
に拙筆の(層)乱るゝま禁じ得ませんながらへし身のすべてを捧げて皆様に御恩あへ
さなければならぬのであります毎日く生活に追はれ只心のみにて如何とする事きえな
うずかくの如く失禮さして載きます何とぞ御許し下さい度く御頼み申上げます茲に貴時
の[]取斗の大事を想起さして載さその英魂を慕ふと共に御遺族皆様の御使
務海まで御探の多幸坊ちやまの御成長異郷より切に御祈りますことばかりであります

昭和十九年四月一日 陸軍省 陸軍大臣 杉山元 閣下 謹啓

あります。私はお母の御尊顔を拝して直接お話し致したところへ戻ります。

昭和十九年十月二十四日。私共の部隊にも動員命令が降下したのであります。奥村は皆集まりと感激の此の日を如何と形保じてよい。此の日を永遠に忘すれることは出来ないと存じます。

そして多忙の出戦準備の夜。日につまみお慰みにならぬ。此の間許可あり。

秋も飯宅せられはせずであり。其の操であり。たらこの秋こそと。この訣別であつた。

らうと存じ上げます。私は當時部隊本部に居ります。其の中隊にて人員がおります。そ

の方に移りました。通稱は高千穂部隊。鹿島部隊。動員部隊名は第二機進團機進第四

聯隊(空丸四九)として編成せられ。聯隊本部通信班附准尉として上級職をと

つて居られたはずであります。冬は南の島に思はせつ。考ふれば雄々しくも悲しく

その出陣を秘して思出濃かり。川南と出發しました。昭十九年十月二十八日の夜で

あります。た(路門)司港へ。そして晝夜の塔載流し。中を船が兵士も(体)となり

故國門司港を過ぎました。同年十一月三日。菊の佳節にかります。塔乗しました。船はそ

の後(部隊)上陸後教目。比島南方にて沈み。たかの大東丸(七千七)で台湾の基隆

港。高雄港に寄港。此の時(部隊)残り入浴。その他のため上陸しました。そして船團は比

陸軍

津賓ルソン島リンガス湾北サンエルナンドについたのが同年十二月で、たこの間は非常に元氣であった様にお見受け致します。私は對空射撃對潜水艇射撃を命せられ、したので任務上甲板に機關銃を指揮して終始しなければならず此處に居りましたのです。[]は船内通信網の構成通信確保のため班長を補佐して活躍する操浪荒いバシー海峡ではよく部下を指導して甲板を走り居られ、お蔭で今の私は眼に浮ぶ様であります。

北サンエルナンド上陸後自動車輸送にてマニラ北方南サンエルナンドへとルソン島より南断し同地の國民學校に宿泊し、機進準備をなすと共にその戦期を窺ったのであります。[]とは任務場所の關係等により疎折りお会いする程度で、たか此の時も通信の先任の者として御多忙の様でありました。が非常に元氣で、た数日の後高千穂部隊はレイテ島の要奥敷所に落下傘降下しました。そのかみの一八部隊主力を以ちまてタクロバン

平地に私共の部隊の主力を以てオルモック附近に命せられたのであります。[]は任務の都合上同年十二月十四日頃第三次機進と思ひますがオルモック北方バレンジャー飛行場に降下せられたはずであり、その頃既に私は機進して其重兵方面の戦いに参加して居りました。その任務をうけ若干の部下を指揮して軍司令部(第三五軍) []に下當つた。

担任附近に移りました時、[]にお逢ひしました。下士官候補生等を指揮して若干の通信器等を携えて居る人員は五名でしたので自衛力お少くおこまりの操でした。お話しました處から此の操を戦況で状況は全くわからず部隊の主力には追及出来ず通信は敵の電波に捕捉せられ用は足たず困り居る故指揮下に入れ下さいとの言葉で、[]の軍司令部に連絡しました處から早々許され、[]外四名私の部下として力になつて戴く事になりました。私も任務の都合によりまして動員當時の部下は方々に手離して單身と言つて良し候。何も兵力を携えて居りませんで、[]なので大いに期待し、[]は私が本部に勤務して居りました頃よりよくお世話操になりました。[]は、[]ので一番の先任者として私の補佐として戴くことになったのであります。

戦勢傾き我に利あらず。その後私達はずっと司令部の護衛にあたつたのであります。かどうしましても指揮中絶する司令部は敵の攻撃の目標となり幾回か司令官の身辺にも危急が迫りました。[]以下よく頑張つて下され護衛の任務を完済することが出ました。丁度、[]とお逢ひしましたのが「ダブリハン」と言ふ所で多分十二月十五日頃だったと思ひます。フー

ーテン附近の戦いが十七日それ以後にひきつゞき、[]十九日にはリボンがオ附近の戦いの論

敵の包圍の中のこととして小せり合ひは連日所々に惹起され戦はたえまなかつたのであります。フア
トン附近では實に乱戦、部下も大分失ひ元氣なものは一緒に連れて来られた三名で一名は
此のフアトンで失ひました。やがて斬りぬけ、新設せられたリボンがオの司令部につきまゝた
のが十七日夜更十八日は残し私は將校下候に出ました。十九日は新らしく部下を戴きま
して新軍の企圖に基づく任務の實行についで計画確立となり完成となりして居りました。
勿論私の最も大切な力となり御手傳下さうな朝まだきより四圍の銃聲を耳にぞりてそれとな
軍の直衝隊に接戦の要と連絡しておいたのです。か一瞬間急に銃聲が激しく四方よりする。包圍攻
撃の至近の距離より攻撃を以てしたのでせりとはいへず、覚悟ありました。ものの不意と
うけ自分の部下を掌握する事もならず勿論部下も指揮官の許にゆく事ゝならず軍司令
官以下一兵に至るまで應戦敵味方入り乱れ撃ち手榴弾を投げ軍力を振ひつたに至る迄は何
れもかりませんで、は終始私の身辺にて敢斗その勇戦振りは私にどんなに勇氣と
力とをあたへた事とせり此の戦いで、は砲彈のため軍の装具等ははねとはされ、た
が百傷は皆無で心気旺盛であります。た夕方に至り敵砲隊の射程延伸と共に敵も私共の後
方とてんく前進して行きますので司令部の方にも軍事機密を漏らすものと思ひやりめ

りし。私の記憶には、**〇**が只お二人でありました。二人で色々相談の上、濕地帯を通過して軍
の移動したとおぼしきパロンボン方面に進軍するところだと思つた。今々方位の解りませぬ事
業原或は腰も没する様な濕地十何回が渚流を泳ぎ敵機の銃惠と民軍の攻害日没後はめ
だめの水牛におどろかされ、やう身もいそがれはマラリや蚊におそはれ泣くに泣けない敗走のか
なりぬと二人で勸し合へば夜のぬれたパンをなめ乍ら磁石を頼りにひたに西進して司令部の後
置を捜めました。二十日未明疲労と飢餓に中五斗米程の川をようやく渡りました。處空
際に数多い鉄帽の影も見えて今や最後二人之に斬り込みしようとしてよくく確め近寄
りますと閣下以下休憩されて居られる處で、たぬれぬづみ、状況を報告致し御挨拶
し、閣下もお元気で無事を喜んで下さいます。たゞ度私は非常に高く發熱し、**〇**が
参謀長が行かひ明のため直に**〇**と命をうけて捜索に出まゝて運よくお供し、お入りま
した。其の後四散した部下は、とどろき居るや、居りす。たゞそれと私共の部隊関係者であつめ
る**〇**、**〇**には先任者としてお骨折りを願ひました。おそれかゝる敵の攻害は、うへと
もくつとまゝといふばかりで敵軍より勇敢で天晴なものと判断しました。此の敵を妨害、阻止
し、軍司令部の離脱を容易ならしむる如く努めたのであります。遂にこの標に敵と抵抗し

6-19

171

のと思考されし此の折違ひにて
中(さん)に駈寄りした下から来た敵の銃弾より下腹部を貫きせられ弾丸は腰部附近に
止り居るものらしく直に衛生兵の手當を受けしもの、既に時刻の言ひたげに幾度か動
かすか聲がせずその腫れが大きくなり参りし早やおぼつかなく思ひましたや何か言ひ残すこ
とはないかと大聲で叫ぶと叫びくわへまゝにか只何やら西字を動かすのみの口を動かすのみとい
聲もなく次第に冷たくなり一回の眼開きから下り遂に此の世に英魂をといひ散花せられたので
あります何にせよ敵中へ任務の途中急なる時思ふ様御葬ひ致すことは出来ず申譯なく
存じ居ります敵の眼にとりてはと急ぎ具秘かに此のバナ、林の中に埋葬せられ共にこれ送
添ひて参りました杖をちなみて墓標のしるしとして樹てましたその折違ひとしましては小骨を切
断した遺品としましては小型腕時計 小形圓表 印鑑 御遺書等をお預り致すので
御座ります

バナ、の葉陰自動短銃を握つて永遠に眠られた
は黙々温厚の人事に處するに断と實行の
訓の中に偉大な
の人格を永遠に忘れぬことか出来なうでしやう
と共に私

陸軍

の所へ参りし兵も前に一部申し上げし兵にファートン附近(名)戦死リボンがより傳令に於て(名)戦死リボンがオ附近にて二名戦死と推定ことごとくなかりしにこれらの方々は臨時指揮所に入りしため書類になき氏名はの論留野坂常春の方なども解らず併せて茲に再度冥福をお祈りする由ありであります 草枕茂彦 氏は從前に故郷の事を語る機會も何回もありしに奥様のことおちよまのこと大部御心配して居られしに多少最後のお言葉聲なき遺言も御遺族様方のこと、お察し致しますがわきて奥様將來のつらさねからい御子息様の御成長を祈りしたのではないかと存じ上げます 昭和三年二月初旬頃軍の集結と共に部隊主力に合ししもので 〃の固有隊長であります 通信班長 〃遺骨遺品 戦士遺等(均)申し送りしにたがその後任務の都合上お訣れしてそのまゝとあり 〃の消息も不明関係者もことごとく全滅しましただけでそれ等の品も然る可く處置しられたものと思ひます 私から確とは申し上げられませぬがくして戦況上進取の件などもそのまゝになつて居られると思ひますかその様なわけですから戦死當日もあらずに津村に進めてさうつかへなきものとなりす 若しその事でお詮があるやうなら地

6-21

元収者おはる未復還として居ますれば別取居免の復還被周ひ合せらるる事より確
然と標しると思ひます何とぞ

くも御葬以下され度く亦中實の余り御貴族係與様方御体におきわりありま
せぬ様切にお祈り申し上げて止みせん

乱筆はもちろんでござりますと云ひのつかぬ事共書連ねましたか何事思へからず御期
讀下といふ様御願ひ致します

なほ木筆から御願ひ申しあげた事は本文は特別の方以外ならんぐ他員おびが
え下され度く我儘下らお願ひ申し上げます

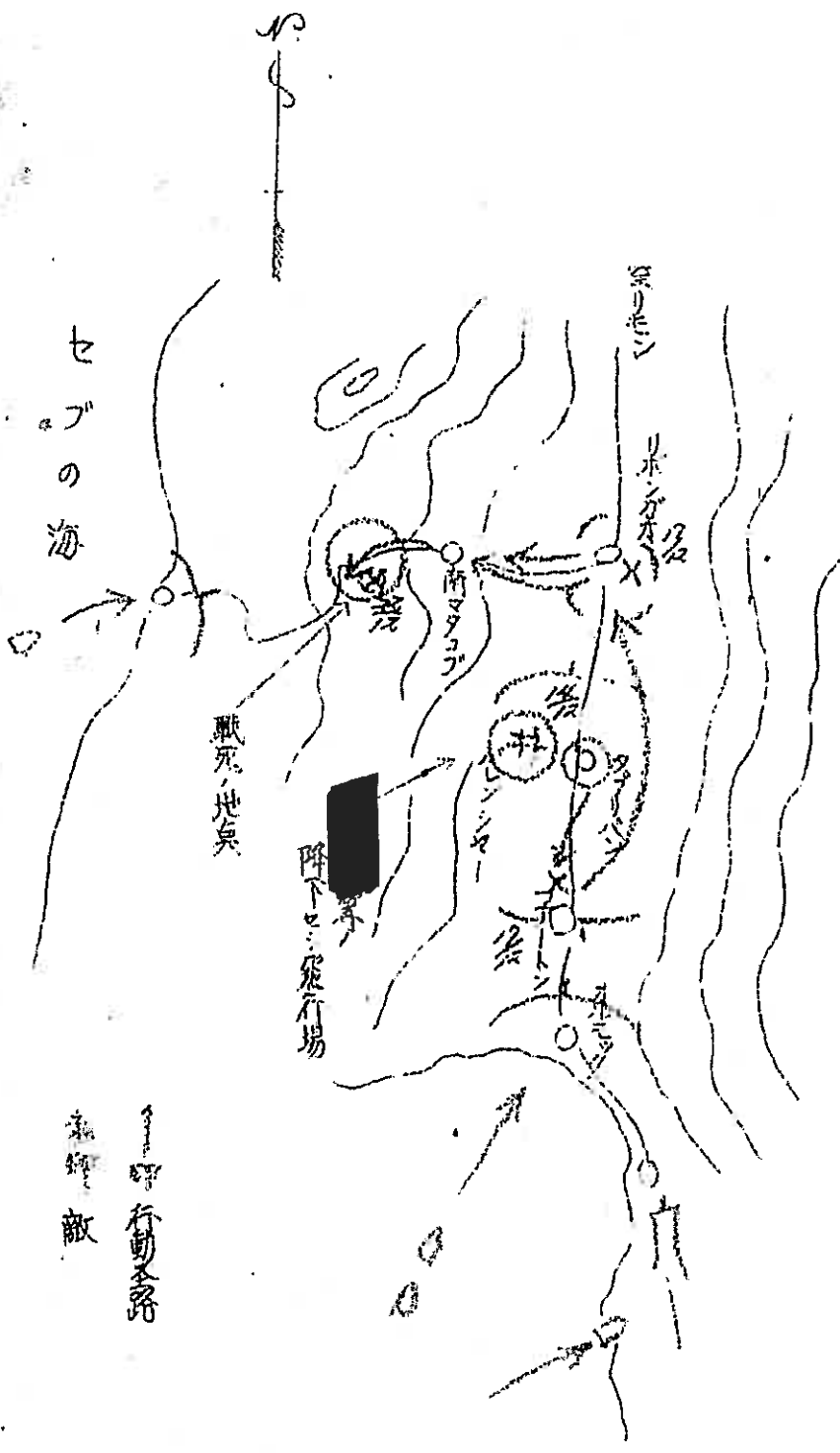
関係者各位にくれぐれよろしくお傳へ下さい
九月十四日
不備
お

様
様
様

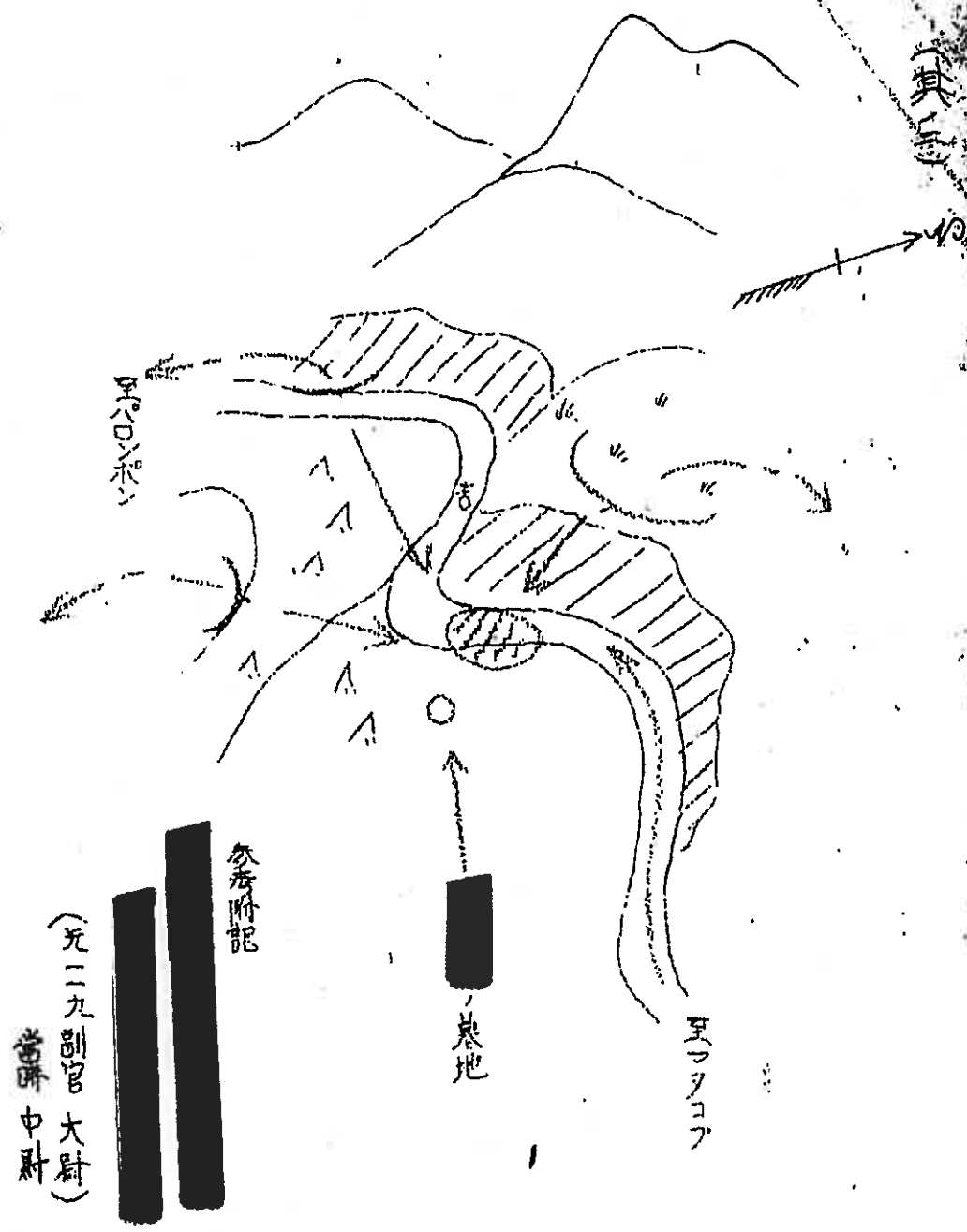
御子息様

侍史

行動要図(其二)



6-23



6-24

現認證明書

地方世話

死	所屬部隊	本籍地	役職	死亡年月日時	死亡場所	死亡事由	死亡區分	留守宅住所氏名	者	死亡時状況	死者との関係
	前死階級										
	駐混五十四旅團		補兵	昭和十九年十二月二十二日	セブ島東海岸タハラ付近	頭部貫通銃創	戦死			當時少隊にてセブ島北東三十里地帯セブ島の北東に警備に往く途中先鋒隊の前進中ゲリラの多発により敵の攻撃を受けて一月分より其隊々戦死	戦友

右現認證明致します

昭和 22 年 4 月 16 日

現認者	本籍	現住所	所屬部隊	官等氏名
			第一七六〇二部隊	



昭和二十一年 月 日 公第 號

地方世話部 死亡者 認定票

昭和二十一年 月 日 製
守 業 務 課

所屬部隊名 固有名 西軍野化員敵衛隊部 通稱名 威一〇六八二

本籍地 昭 役 兵 輔主 級等官 前亡死 上 後亡死 名 氏

死亡年月日時 昭 19. 12. 22 死亡場所 比叻山山頂 陸軍病院傳染病棟

死亡原因、分類 戦 病 死 傷病名 細菌性赤痢 (フムム受源)

遺骨 現 住 所 氏 名

遺骨は現地に於て埋葬する 無し

威一〇六八二

陸軍七曹 (分隊長)

決 判	路經手入ノ料資及料資	査調定	留 留 者 當 擔	現 住 所	氏 名	名 部 所 見	ス 藏 亂	ス モ 器 日	ス 滑 抹	シ 滑 抹	ソ ア	停 年 名 籍 頁	認 定 進 級 告 知 記 録	印 檢 点

中隊長より来る信

市主人 [] 氏には宇品にて暗子教育終了后、曉一九七七
部隊長 [] 中佐の結成と同外に本部附となり、十月中旬部
隊本部と共に比島に向ひ高雄港を發、昭和十九年三月
二十三日比島サンフェルナンド西方十哩の海上にて敵奥雷の
攻撃を受け沈没、副官 [] 大尉以下多数の戦死者を
出し、[] 氏も不幸其際戦死せられた様、聞いて
居り、[] 尚視を調査命令せの上、詳細の事を知らせ
いたしたいと思つております。 取急ぎに知らせと

二月二十三日

え中隊長

様

28-14

死亡事實(現認)證明書

米鑑

現住所 右二丁目

所屬部隊 威一六(一)連(一)班(一)班(一)班

徵集年

氏名

陸軍(陸軍)

右ノ者昭和十九年十二月二十五日 時

於此島ニ於テ左ノ様ニ依リ戦傷

瘡死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和十九年一月十日

所屬部隊

職名 大日本帝國海軍

官等級 陸軍(陸軍)

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス

一、職名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

61-10

證明書

一 本籍所屬部隊官等級氏名

鉄第五四五四部隊

隊 陸軍少尉

一 留年担当若住所氏名

父

一 死亡年月日場所事由

昭和十九年十二月二十三日 呂宋島イロコス州

冬ケヨス西西畑二料の海上に於て輸送船沈没
の馬鞍死す

右證明す

昭和三十三年三月十一日

元鉄第五四五四部隊陸軍中尉

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日
地方世話部

所屬部隊 固有姓名 船舶砲兵第二聯隊 通稱 昭九五四

年集職 職役 兵 職等官 前亡死 後亡死 氏名 生年月日 日生

死亡年月日時 昭和 19 年 12 月 24 日 午後 時 分 死亡場所 台湾ノイロシノ間海上

死亡區分 戦死 傷病名

受(受)病(傷)年月日 昭和 年 月 日 准士官以上 任官年月日

死亡時 状況 遺留品 の有無

證明候也

昭和 23 年 5 月 12 日

所屬部隊 船舶砲兵第二聯隊
現任所 官等職氏名印

地方世話部長

殿

61-10

現認證明書

本籍地

石川

現住所

石川航空軍独立第七機団他隊

所屬部隊

陸軍中尉(死亡前)

官氏名

石川 中尉(死亡前)

死亡場所

病死

死亡區分

昭和二十二年十二月二十九日 八時五分

死亡日時

ナブス

死亡傷(病)名

現任新一同

留守擔當者住所

妻

右證明

する

昭和二十二年

月 日

現認者住所

元所屬官氏名

石川航空軍独立第七機団他隊付

陸軍曹長

24-11

[illegible]

昭和二十二年 月 日 公署 昭和三十二年 月 日 調製

地方世話部 死亡者 認定票

所屬部隊名 固有名 独混五五旅 工兵隊 通稱名 咸一七六一二

本籍地

年集徴 14 種 役 予 種 兵 工 級等官 前亡死 上 後亡死 名 氏 月 日生

死亡年月日時 昭 19 12 25 死亡場所 比島 小口島 タクトー山 傷病名 腹部貫通銃創

人 死亡區分 戦 死 現 住 所 同 氏 名 母 氏 名

遺骨状況 現地埋葬 無 右通現認

陸軍部長 咸一七六一二部隊 停年名簿頁

決 判 路經手入ノ料資及料資 官陸 等級 議 印 檢 点 認定 進級 告知 記録

死 亡 證 明 書

所屬部隊	明治四十九年四月二十日
氏名	佐藤 重太郎
生年	明治二十九年三月二十日
生所	東京府東京市
死因	戦死
死日	明治四十九年四月二十日
死時	午後二時
死場所	東京府東京市
死後	葬
備考	

右 證 明 致

昭和二十三年一月一日

証明者 本隊 佐藤 重太郎

現住所 東京府東京市

所屬部隊 東京府東京市

役 佐藤 重太郎

死因 戦死

死日 明治四十九年四月二十日

死時 午後二時

死場所 東京府東京市

死後 葬

死亡確認書

隊中三第銃関機時臨				國有	部所
隊部一〇四水隊				通称	隊属
歩	補		昭一	兵役	任職
			二	種	年
		死後	上等兵	生前	官
					年
				氏名	氏名
				(ナカリ)	(ナカリ)
				年月日生	年月日生
				本籍地	本籍地
養父		続柄	本籍地	現住所	留守担当者
		氏名	昭一九	年月日	死亡状況
戦病死		正分	昭一九	場所	事由
昭一九			昭一九	八月頃	
赤痢		傷病名	不明	遺言	遺言
				状況	遺言

右
昭和五年一月十日
旧所
旧官
現任
所

昭和五年一月十日
旧所
旧官
現任
所

他、戦友より傳聞

印

現認證明書

本籍地

住所

所屬部隊

船舶工兵第三十二聯隊(威一九七四)

官氏名

陸軍少尉(死亡前)

死亡場所

フィリピン、北サマール島、中四の島の海上(乾満丸)海没

死亡區分

戦死

死亡日時

昭和十九年十二月二十六日 午前十一時頃

死亡傷(病)名

留守擔當者住所

遺柄氏名

貴父

右證明する

昭和二十二年六月八日

現認者住所

元所屬官氏名

船舶工兵第三十二聯隊 陸軍少尉

8-12



本籍地 所屬部隊 氏名 陸軍佐長	姓名 生年月日 住居	現職 勤務地 勤務時間	死因 死時 死所	遺体 遺体位置 遺体状況	備考 備考 備考
	氏名 生年月日 住居	現職 勤務地 勤務時間	死因 死時 死所	遺体 遺体位置 遺体状況	備考 備考 備考
	氏名 生年月日 住居	現職 勤務地 勤務時間	死因 死時 死所	遺体 遺体位置 遺体状況	備考 備考 備考
	氏名 生年月日 住居	現職 勤務地 勤務時間	死因 死時 死所	遺体 遺体位置 遺体状況	備考 備考 備考

事實(現証) 護州書

固有部隊名

朝鮮平壤茅之七聯隊

通稱號名

約一二〇五部隊

官茅氏名

從七法勳五等陸軍大尉

不詳地

現住所

右同

右ノ事實昭和丁九年五月二七日午後八時丁分ニ北サシエルナントニ

於テ戰傷

死シタルコトヲ證明ス

昭和二十二年四月一日

固有部隊名

朝鮮平壤茅之七聯隊

通稱號名

約一二〇五部隊

水籍地

現住所

官茅氏名

陸軍大尉

現 認 證 明 書

14-12

氏現本籍地
住所

[Redacted]

全

所屬部隊

司昭南

年 月 日

第十五續成飛行隊軍員

官等

級陸軍飛行員

後獲授

昭和拾年

第補充兵

轉重兵

死亡年月日

昭和拾九年十二月廿八日

朝

死亡場所

比島(三三)台灣內航行中(飛四)

死亡区分

戰死

死亡事由

又病歿

現認

昭和十九年十二月廿四日比島(三三)公帆台灣

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

機中

被水難死

公

本表は、昭和二十一年三月三十一日現在の調査結果を記載するものである。

姓名	性別	年齢	出身地	職業	備考
山田 太郎	男	25	東京府	学生	
田中 一郎	男	30	大阪府	会社員	
佐藤 三郎	男	28	京都府	学生	
鈴木 次郎	男	35	神奈川	会社員	
高橋 五郎	男	40	福岡県	会社員	
中村 六郎	男	38	愛知県	会社員	
山本 七郎	男	45	北海道	会社員	
田村 八郎	男	50	新潟県	会社員	
佐々木 九郎	男	55	山形県	会社員	
渡辺 十郎	男	60	秋田県	会社員	
山崎 十一郎	男	65	岩手県	会社員	
田嶋 十二郎	男	70	宮城県	会社員	
佐藤 十三郎	男	75	福島県	会社員	
鈴木 十四郎	男	80	茨城県	会社員	
高橋 十五郎	男	85	栃木県	会社員	
中村 十六郎	男	90	群馬県	会社員	
山本 十七郎	男	95	埼玉県	会社員	
田村 十八郎	男	100	千葉県	会社員	
佐々木 十九郎	男	105	東京都	会社員	
渡辺 二十郎	男	110	東京都	会社員	
山崎 二十一郎	男	115	東京都	会社員	
田嶋 二十二郎	男	120	東京都	会社員	
佐藤 二十三郎	男	125	東京都	会社員	
鈴木 二十四郎	男	130	東京都	会社員	
高橋 二十五郎	男	135	東京都	会社員	
中村 二十六郎	男	140	東京都	会社員	
山本 二十七郎	男	145	東京都	会社員	
田村 二十八郎	男	150	東京都	会社員	
佐々木 二十九郎	男	155	東京都	会社員	
渡辺 三十郎	男	160	東京都	会社員	
山崎 三十一郎	男	165	東京都	会社員	
田嶋 三十二郎	男	170	東京都	会社員	
佐藤 三十三郎	男	175	東京都	会社員	
鈴木 三十四郎	男	180	東京都	会社員	
高橋 三十五郎	男	185	東京都	会社員	
中村 三十六郎	男	190	東京都	会社員	
山本 三十七郎	男	195	東京都	会社員	
田村 三十八郎	男	200	東京都	会社員	
佐々木 三十九郎	男	205	東京都	会社員	
渡辺 四十郎	男	210	東京都	会社員	
山崎 四十一郎	男	215	東京都	会社員	
田嶋 四十二郎	男	220	東京都	会社員	
佐藤 四十三郎	男	225	東京都	会社員	
鈴木 四十四郎	男	230	東京都	会社員	
高橋 四十五郎	男	235	東京都	会社員	
中村 四十六郎	男	240	東京都	会社員	
山本 四十七郎	男	245	東京都	会社員	
田村 四十八郎	男	250	東京都	会社員	
佐々木 四十九郎	男	255	東京都	会社員	
渡辺 五十郎	男	260	東京都	会社員	
山崎 五十一郎	男	265	東京都	会社員	
田嶋 五十二郎	男	270	東京都	会社員	
佐藤 五十三郎	男	275	東京都	会社員	
鈴木 五十四郎	男	280	東京都	会社員	
高橋 五十五郎	男	285	東京都	会社員	
中村 五十六郎	男	290	東京都	会社員	
山本 五十七郎	男	295	東京都	会社員	
田村 五十八郎	男	300	東京都	会社員	
佐々木 五十九郎	男	305	東京都	会社員	
渡辺 六十郎	男	310	東京都	会社員	
山崎 六十一郎	男	315	東京都	会社員	
田嶋 六十二郎	男	320	東京都	会社員	
佐藤 六十三郎	男	325	東京都	会社員	
鈴木 六十四郎	男	330	東京都	会社員	
高橋 六十五郎	男	335	東京都	会社員	
中村 六十六郎	男	340	東京都	会社員	
山本 六十七郎	男	345	東京都	会社員	
田村 六十八郎	男	350	東京都	会社員	
佐々木 六十九郎	男	355	東京都	会社員	
渡辺 七十郎	男	360	東京都	会社員	
山崎 七十一郎	男	365	東京都	会社員	
田嶋 七十二郎	男	370	東京都	会社員	
佐藤 七十三郎	男	375	東京都	会社員	
鈴木 七十四郎	男	380	東京都	会社員	
高橋 七十五郎	男	385	東京都	会社員	
中村 七十六郎	男	390	東京都	会社員	
山本 七十七郎	男	395	東京都	会社員	
田村 七十八郎	男	400	東京都	会社員	
佐々木 七十九郎	男	405	東京都	会社員	
渡辺 八十郎	男	410	東京都	会社員	
山崎 八十一郎	男	415	東京都	会社員	
田嶋 八十二郎	男	420	東京都	会社員	
佐藤 八十三郎	男	425	東京都	会社員	
鈴木 八十四郎	男	430	東京都	会社員	
高橋 八十五郎	男	435	東京都	会社員	
中村 八十六郎	男	440	東京都	会社員	
山本 八十七郎	男	445	東京都	会社員	
田村 八十八郎	男	450	東京都	会社員	
佐々木 八十九郎	男	455	東京都	会社員	
渡辺 九十郎	男	460	東京都	会社員	
山崎 九十一郎	男	465	東京都	会社員	
田嶋 九十二郎	男	470	東京都	会社員	
佐藤 九十三郎	男	475	東京都	会社員	
鈴木 九十四郎	男	480	東京都	会社員	
高橋 九十五郎	男	485	東京都	会社員	
中村 九十六郎	男	490	東京都	会社員	
山本 九十七郎	男	495	東京都	会社員	
田村 九十八郎	男	500	東京都	会社員	
佐々木 九十九郎	男	505	東京都	会社員	
渡辺 一百郎	男	510	東京都	会社員	
山崎 一百一十郎	男	515	東京都	会社員	
田嶋 一百二十郎	男	520	東京都	会社員	
佐藤 一百三十郎	男	525	東京都	会社員	
鈴木 一百四十郎	男	530	東京都	会社員	
高橋 一百五十郎	男	535	東京都	会社員	
中村 一百六十郎	男	540	東京都	会社員	
山本 一百七十一郎	男	545	東京都	会社員	
田村 一百八十二郎	男	550	東京都	会社員	
佐々木 一百九十三郎	男	555	東京都	会社員	
渡辺 二百郎	男	560	東京都	会社員	
山崎 二百一十郎	男	565	東京都	会社員	
田嶋 二百二十郎	男	570	東京都	会社員	
佐藤 二百三十郎	男	575	東京都	会社員	
鈴木 二百四十郎	男	580	東京都	会社員	
高橋 二百五十郎	男	585	東京都	会社員	
中村 二百六十郎	男	590	東京都	会社員	
山本 二百七十一郎	男	595	東京都	会社員	
田村 二百八十二郎	男	600	東京都	会社員	
佐々木 二百九十三郎	男	605	東京都	会社員	
渡辺 三百郎	男	610	東京都	会社員	
山崎 三百一十郎	男	615	東京都	会社員	
田嶋 三百二十郎	男	620	東京都	会社員	
佐藤 三百三十郎	男	625	東京都	会社員	
鈴木 三百四十郎	男	630	東京都	会社員	
高橋 三百五十郎	男	635	東京都	会社員	
中村 三百六十郎	男	640	東京都	会社員	
山本 三百七十一郎	男	645	東京都	会社員	
田村 三百八十二郎	男	650	東京都	会社員	
佐々木 三百九十三郎	男	655	東京都	会社員	
渡辺 四百郎	男	660	東京都	会社員	
山崎 四百一十郎	男	665	東京都	会社員	
田嶋 四百二十郎	男	670	東京都	会社員	
佐藤 四百三十郎	男	675	東京都	会社員	
鈴木 四百四十郎	男	680	東京都	会社員	
高橋 四百五十郎	男	685	東京都	会社員	
中村 四百六十郎	男	690	東京都	会社員	
山本 四百七十一郎	男	695	東京都	会社員	
田村 四百八十二郎	男	700	東京都	会社員	
佐々木 四百九十三郎	男	705	東京都	会社員	
渡辺 五百郎	男	710	東京都	会社員	
山崎 五百一十郎	男	715	東京都	会社員	
田嶋 五百二十郎	男	720	東京都	会社員	
佐藤 五百三十郎	男	725	東京都	会社員	
鈴木 五百四十郎	男	730	東京都	会社員	
高橋 五百五十郎	男	735	東京都	会社員	
中村 五百六十郎	男	740	東京都	会社員	
山本 五百七十一郎	男	745	東京都	会社員	
田村 五百八十二郎	男	750	東京都	会社員	
佐々木 五百九十三郎	男	755	東京都	会社員	
渡辺 六百郎	男	760	東京都	会社員	
山崎 六百一十郎	男	765	東京都	会社員	
田嶋 六百二十郎	男	770	東京都	会社員	
佐藤 六百三十郎	男	775	東京都	会社員	
鈴木 六百四十郎	男	780	東京都	会社員	
高橋 六百五十郎	男	785	東京都	会社員	
中村 六百六十郎	男	790	東京都	会社員	
山本 六百七十一郎	男	795	東京都	会社員	
田村 六百八十二郎	男	800	東京都	会社員	
佐々木 六百九十三郎	男	805	東京都	会社員	
渡辺 七百郎	男	810	東京都	会社員	
山崎 七百一十郎	男	815	東京都	会社員	
田嶋 七百二十郎	男	820	東京都	会社員	
佐藤 七百三十郎	男	825	東京都	会社員	
鈴木 七百四十郎	男	830	東京都	会社員	
高橋 七百五十郎	男	835	東京都	会社員	
中村 七百六十郎	男	840	東京都	会社員	
山本 七百七十一郎	男	845	東京都	会社員	
田村 七百八十二郎	男	850	東京都	会社員	
佐々木 七百九十三郎	男	855	東京都	会社員	
渡辺 八百郎	男	860	東京都	会社員	
山崎 八百一十郎	男	865	東京都	会社員	
田嶋 八百二十郎	男	870	東京都	会社員	
佐藤 八百三十郎	男	875	東京都	会社員	
鈴木 八百四十郎	男	880	東京都	会社員	
高橋 八百五十郎	男	885	東京都	会社員	
中村 八百六十郎	男	890	東京都	会社員	
山本 八百七十一郎	男	895	東京都	会社員	
田村 八百八十二郎	男	900	東京都	会社員	
佐々木 八百九十三郎	男	905	東京都	会社員	
渡辺 九百郎	男	910	東京都	会社員	
山崎 九百一十郎	男	915	東京都	会社員	
田嶋 九百二十郎	男	920	東京都	会社員	
佐藤 九百三十郎	男	925	東京都	会社員	
鈴木 九百四十郎	男	930	東京都	会社員	
高橋 九百五十郎	男	935	東京都	会社員	
中村 九百六十郎	男	940	東京都	会社員	
山本 九百七十一郎	男	945	東京都	会社員	
田村 九百八十二郎	男	950	東京都	会社員	
佐々木 九百九十三郎	男	955	東京都	会社員	
渡辺 一千郎	男	960	東京都	会社員	
山崎 一千一十郎	男	965	東京都	会社員	
田嶋 一千二十郎	男	970	東京都	会社員	
佐藤 一千三十郎	男	975	東京都	会社員	
鈴木 一千四十郎	男	980	東京都	会社員	
高橋 一千五十郎	男	985	東京都	会社員	
中村 一千六十郎	男	990	東京都	会社員	
山本 一千七十一郎	男	995	東京都	会社員	
田村 一千八十二郎	男	1000	東京都	会社員	
佐々木 一千九十三郎	男	1005	東京都	会社員	
渡辺 二千郎	男	1010	東京都	会社員	
山崎 二千一十郎	男	1015	東京都	会社員	
田嶋 二千二十郎	男	1020	東京都	会社員	
佐藤 二千三十郎	男	1025	東京都	会社員	
鈴木 二千四十郎	男	1030	東京都	会社員	
高橋 二千五十郎	男	1035	東京都	会社員	
中村 二千六十郎	男	1040	東京都	会社員	
山本 二千七十一郎	男	1045	東京都	会社員	
田村 二千八十二郎	男	1050	東京都	会社員	
佐々木 二千九十三郎	男	1055	東京都	会社員	
渡辺 三千郎	男	1060	東京都	会社員	
山崎 三千一十郎	男	1065	東京都	会社員	
田嶋 三千二十郎	男	1070	東京都	会社員	
佐藤 三千三十郎	男	1075	東京都	会社員	
鈴木 三千四十郎	男	1080	東京都	会社員	
高橋 三千五十郎	男	1085	東京都	会社員	
中村 三千六十郎	男	1090	東京都	会社員	
山本 三千七十一郎	男	1095	東京都	会社員	
田村 三千八十二郎	男	1100	東京都	会社員	
佐々木 三千九十三郎	男	1105	東京都	会社員	
渡辺 四千郎	男	1110	東京都	会社員	
山崎 四千一十郎	男	1115	東京都	会社員	
田嶋 四千二十郎	男				

-८-

戰歿者現詔証

64-10

死亡現認(確認)證明書

本籍地

所屬部隊

一七九部隊階級(死亡前)陸軍少尉

一死亡年月日時

昭和九年三月 三日 午前 七分

一死亡場所

比島レイテ島アバコ高地

一死因

戦死

一傷痕名

一遺骨名

一遺物名

一死後状況

敵包圍部隊連日激戦后敵友軍混戦

離空陸一隊ノ猛攻重傷部隊全滅中ニテソノ隊各々散

暗夜敵中突入戦死セルヲ認ム

右記(確認)中

昭和九年三月十日

署名

場所

署名

署名

